

関係住民からいただいたご意見に対する回答

京浜河川事務所

「多摩川水系河川整備計画【大臣管理区間編】」の変更手続きにおいて、変更原案への公聴会・意見募集及びWEBアンケートを実施した際にいただいた意見に対して、河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針を掲載します。

公聴会

P1～P8

(1)公聴会開催日	令和7年8月3日(日)～4日(月)の2日間
(2)公聴会開催会場	大師河原干潟館(神奈川県川崎市) 狛江エコルマホール(狛江市民ホール)(東京都狛江市) 立川市女性総合センター(東京都立川市)
(3)公述人	合計で5名からの意見(神奈川県、東京都在住の希望者全員)

意見募集

P9～P27

(1)意見募集期間	令和7年7月14日(月)～令和7年8月18日(月)
(2)頂いた意見の数	15件

アンケート

P28～P43

(1)意見募集期間	令和7年7月14日(月)～令和7年9月19日(金)
(2)意見の提出方法	WEBでのアンケート
(3)頂いた意見の数	185票(回答数) ※小学生向けでは302票(回答数)

会場、公述人番号:大師河原干潟館、No.1

【ご意見の概要】

多摩川のこれからについて、地元川崎の意見の仕方をさらに検討してほしい

【発言録の要約】

- ・ 気温上昇が深刻化する中で、市民も行政も「具体的に何をすべきか見えにくい」という危機感を共有しつつ、より明確な行動指針が必要だと述べている。
- ・ 台風 19 号の記憶が薄れつつある子ども世代に向けて、防災教育の必要性を感じており、自身も写真資料を用いて災害の理解を促す取り組みを行っている。
- ・ 台風 19 号では六郷橋周辺の洪水状況が深刻で、川崎市内で死者が出たことを強調し、災害記録をきちんと残し伝える重要性を訴えている。
- ・ 干潟や汽水域の生き物に関する資料を配布し、地域の自然環境の理解促進に努めており、多摩川利用者から質問も多いため、正確な情報提供の必要性を強く感じている。
- ・ 地域で配布した紙資料はすぐに無くなるほど関心が高く、多摩川の変化や治水・環境整備について情報発信の機会を増やすべきだと述べている。
- ・ 昔の治水の知恵(聖牛など水制工)にも学ぶべき点があり、現代的な形にアレンジしつつ活かせる可能性があるという提案。
- ・ 多摩川の工事や設備の変化について市民から質問されることが多く、地域住民が理解しやすい説明や広報を行政に求めている。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見ありがとうございました。

また、地域の自然環境の理解促進に努めていただき、ありがとうございます。

当事務所としては、更なる正確な情報提供の必要性、情報発信の機会の増加、地域住民が理解しやすい説明や広報など、住民への情報提供を取り組んで参ります。

・気候変動に対応した川づくり

目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率 1/70~1/80 の規模としています。

・多摩川への関心を高める取り組み

水辺の楽校プロジェクトの継続性確保については、主催する活動メンバーの高齢化や担い手が確保できないなどの課題に対して、活動団体の実態やニーズを把握し、河川管理者や関係自治体との協働のもとで、市民と河川環境のふれあいに関するイベントを実施することを通じて、多くの人が水辺に触れ合う機会を提供し、水辺環境に関心を持つ人を増やしていきます。

会場、公述人番号: 狛江エコルマホール、No.1

【ご意見の概要】

「河川環境における目標設定の考え方」について

(1)河川環境の目標に依存する指標種の設定プロセスの中で、「6.対象河川で求められる環境や条件の整理」として挙げられている多摩川における水質、水量、水温、河床地形、地質、河床材、生物相など多摩川の河相は人為的に大きく変貌してきた。指標種の持続的生育の場づくりと変貌した河相をどうすり合わせ、どう再生、復元するかは流域の土地利用や都市運営にかかわる大きな問題だがそこまで考慮しているか？

「河川環境における目標設定の考え方」について

(2)指標種の選定とその生息環境づくりのための改修事業、創出事業に河道掘削、樹木伐採等が主に取り上げられ干潟、水生、湿地帯植生値、裸地の創出等

「河川環境における目標設定の考え方」について

(3)関係を提示しているが、河道掘削の方法としてどのような方法を考えているか？計画案には河口部に干潟を造成するとして工事を行っているが、干潟が自然に維持されるためには土砂や流況ヨシなどの植生との関係、メカニズムの理解が必要と思うがデータはあるのか？また、樹木の伐採は、生物の生息環境づくりと矛盾しないか？

「治水事業に関する説明」について

(1)整備内容の例、河道掘削、築堤、堤防の整備に挙げられた事例は、生物の多様な生息の場づくりに反する整備、川らしい景観形成に反する整備となっていないか？治水と環境が両立する整備とは異なる工法になっていないか？

「治水事業に関する説明」について

(2)今回の整備計画は大きな目玉として多様な生物の生息環境の場づくりを定量化目標がある。多摩川ではこれまで魚道の整備、ワンド整備、カラノギク育成の砂利河原の造成などの環境整備事業が行われてきたが思わしい結果となっていない。今回の整備計画の変更は多摩川の現状の河川特性を生かした整備事業のあり方、方針の見直しと思われるが、過去の事業の検証を十分時間をかけて行い、河相の変貌、将来の気候変動予測、流域の土地利用、地域住民との連携、利水、治水、環境が両立する都市河川多摩川らしい整備や管理のあり方を創案し実現可能なプログラムづくりを行うよう要請したい。

【発言録の要約】

- ・ 多摩川の指標種設定について、水質・水量・水温・河床地形・河床材・生物相など、人為的な河相変化と都市構造まで考慮して設定しているのか疑問を呈し、より包括的な検討を求めている。
- ・ 多摩川中流域の平常流量の7～8割が下水処理水である点を踏まえ、水温上昇や栄養塩の残存など、水質水量への影響をどう改善するのかを問うている。
- ・ 河床の礫・土砂供給の変化により河相が大きく変わってきた実情を踏まえ、その状態で指標種を設定する合理性について説明を求めている。
- ・ 河道掘削について「流水面だけを掘る」方法は恒常的な断面拡大につながらず、すぐに埋戻る懸念があるため、継続的に掘削を繰り返す必要があるのではないかと危惧。
- ・ 河口の干潟造成に関して、維持には土砂動態・流況・ヨシ帯との関係など自然メカニズムの理解が

不可欠であり、データがあるのかを質問。

・ 樹木伐採について、2019 年台風を受けて全国的に伐採が進んだ経緯を踏まえ、洪水対策としての伐採なのか、生態系配慮の観点がどう扱われているのか説明を求めている。

・ 生物環境の観点から、樹木伐採は食物連鎖にも影響し大きなダメージとなるため、治水と環境施策の矛盾を感じると述べ、より慎重な検討を要望。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見をありがとうございました。頂いたご意見を今後の河川整備に活かしてまいります。

・指標種の設定

多摩川らしい豊かな動植物の生息・生育・繁殖の場を保全・創出するため、定量目標を設定したうえで、河道掘削等の河川整備を推進します。

・掘削方法(川づくり)

多摩川全川においては、上下流の連続性を確保する魚道環境を特に代表する主として、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類を指標種とし、生息・繁殖に適した連続性の確保について、必要に応じて魚道付近の河道整正等により対策を講じるとともに、河道環境については、河道掘削の際に安全性や景観に十分に留意しつつ、必要に応じて浅場の河床が浮き石となる様に重機による河床耕うんを行うなどにより、質の向上を図ります。

・干潟とヨシ帯・礫河原・カワラノギク等の保全

多摩川らしい豊かな自然環境を保全・創出するため、河川整備における多自然川づくりや、砂礫河原・干潟等の創出により多摩川らしい自然環境の保全・創出を実施するとともに、首都圏の貴重なオープンスペースにおいて魅力ある水辺空間・にぎわい創出のため、地域と連携し、かわまちづくりや水辺の楽校等の取組を推進します。

・樹木伐採

河川管理上支障がある河道内の樹木等については動植物の生息・生育・繁殖の場及び景観に配慮しながら必要に応じて伐採等の適切な対策を講じて、洪水の流下の阻害とならないよう管理します。

・整備計画の確定時期・モニタリング

河川水辺の国勢調査や定期的な縦横断測量等を含め、工事や外来種対策などの実施の際には、整備や対策による効果が検証できるように河川環境のモニタリングを実施します。環境モニタリング等により得られた調査結果により、更なる環境データの充実を図るとともに、GIS化等によりデータベースの整備を行い、インターネット等を活用した情報提供体制を充実させます。

会場、公述人番号:立川市女性総合センター、No.1

【ご意見の概要】

(1)

P23 2.5 河川維持管理の現状と課題

河川の 1 番重要なことは平常時の流水の確保である。

浅川については、ここ30～40年間で驚くほど流水が減少している。よって長期スパンで浅川の流水の確保の対策を講じる必要がある。

主な理由

- ・地球温暖化の影響等で雨水と湧水が減少している。
- ・浅川の13本の源流にある水源林が管理の行き届かない針葉樹林に覆われている事。
(広葉樹林帯への変更が必要)
- ・コンクリート護岸により、堤内地の湧水が遮断されてきた。(ワンドの消滅)
- ・北野の処理場の排水が多摩川流域の処理場に編入され、浅川への排水が無くなった。

(2)

P37、2)河道掘削

京浜河川事務所では、平成の初め頃から、浅川が多摩川との合流点より河道掘削を初めてきた。

(日野市や市民団体等には、河道掘削はしていないと言い続けてきたが・・・)

日野市の用水の歴史

日野市では、多摩川から取水する日野用水は永禄10年(1567年)に開削されたと言い伝えられており、浅川からの9ヶ所(現在5ヶ所)の各用水を慣行水利権で取水され東京の米倉と呼ばれるような水田のまちでした。

いまだに市内を110km に及ぶ用水が流れ国土庁から「水の郷日野」に選定を受けている。

問題点

長年の河道掘削により、4ヶ所の取水堰からの取水が困難となっている。

原因は河道掘削にあり、残りの5ヶ所についても時間の問題であり、取水堰の改修についても整備計画に入れて欲しい。

【発言録の要約】

- ・浅川は冬季に水量が著しく減り、かつて清らかだった流れが維持できていない現状を問題視。
- ・北野処理場の浄化水が多摩川へ回されるようになったことで、浅川の水量がさらに低下し、水不足が深刻化していると指摘。
- ・浅川の源流域の多くが針葉樹林で保水力が弱く、広葉樹への転換や下草管理など、森林の質を改善する取り組みが必要だと訴えている。
- ・透水性護岸の導入など過去に市民・行政が協働した成功例を紹介しつつ、近年はワンド(湧水池)が遮断され、生態系が衰退していることを懸念。
- ・特にワンドが枯れることでホトケドジョウなどの生息地が失われており、復元を行うには国・市民・専門家の協力が必要だと強調。
- ・河道掘削によって水位低下や淵・瀬の喪失が進み、魚類や生き物の生息環境が損なわれているため、掘削計画の見直しを求めている。

・長年自身が行ってきた雑木林ボランティア育成の実績を踏まえ、源流域の保全活動へのボランティア活用を行政が積極的に支援すべきと提案。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見ありがとうございました。頂いたご意見を今後の河川整備に活かしてまいります。

・水質改善

多摩川が有すべき水量とその変動及び水質等の水流の実態を把握するよう努める一方、人と河川との豊かな触れ合い活動の場を保全・創出できる多摩川を目指して、必要に応じて良好な水量とその変動及び水質(底質を含む)の実現を目指した検討を行います。

・森林整備による流域の保水・貯留機能の向上

平野部の約9割が市街化され、田畑面積が非常に少ない多摩川における総合治水対策としては、主に支川の洪水処理や下水道施設(樋管・樋門等を含む)及び施策と本川での河道改修との連携や、流域の防災調節池、雨水貯留浸透施設、森林整備等の流域の保水・貯留機能を確保する取組を関係機関と連携して推進することにより、地域単位での水害リスク低減等が期待できることから、特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律により整備された法的枠組も活用しつつ、流域治水の推進を図ります。

・河道掘削と土丹への対応

多摩川全川においては、上下流の連続性を確保する魚道環境を特に代表する主として、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類を指標種とし、生息・繁殖に適した連続性の確保について、必要に応じて魚道付近の河道整正等により対策を講じるとともに、河道環境については、河道掘削の際に安全性や景観に十分に留意しつつ、必要に応じて浅場の河床が浮き石となる様に重機による河床耕うんを行うなどにより、質の向上を図ります。

・正常流量の確保

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、引き続き、水利用の実態把握とそれに基づく必要な調整を進めるとともに、既存の水利用についても河川維持流量を含めた水利用の合理化を関係者の協力を得つつ推進します。

会場、公述人番号:立川市女性総合センター、No.2

【ご意見の概要】

魚道整備について、実際機能していない魚道がある。羽村の堰の水量が足りず、魚が遡上できない。東京都水産課は、上流域迄アユの遡上をと話すが、現実には難しい。水道局との関係性なのか、問題解決の必要性を感じる。

【発言録の要約】

- ・ アユが青梅市などの上流まで遡上できていない現状を問題視。
- ・ 主因として、羽村取水堰で取水されることで魚道に十分な水が流れない点を指摘。
- ・ 1992年から魚道整備が行われているが、魚が実際に上がれていないため、調査不足や改善の遅れを懸念。
- ・ 今後どのような改善策を講じるのか、行政に具体的な計画の提示を求めている。
- ・ 国・東京都・水道局など、取水と魚道に関わる関係機関が連携して対応すべきと要望。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見ありがとうございました。頂いたご意見を踏まえ、引き続き魚道の機能維持と改善に取り組みます。

・魚道の点検状況

堰等の河川横断工作物の魚道の一部において、魚道への誘導施設が有効に機能しておらず、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類の遡上が困難になっていること等を踏まえ、滞留の支障となっている箇所において連続性の確保や河道環境の質の向上を図ります。

・改善の取組

多摩川全川においては、上下流の連続性を確保する魚道環境を特に代表する主として、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類を指標種とし、生息・繁殖に適した連続性の確保について、必要に応じて魚道付近の河道整正等により対策を講じるとともに、河道環境については、河道掘削の際に安全性や景観に十分に留意しつつ、必要に応じて浅場の河床が浮き石となる様に重機による河床耕うんを行うなどにより、質の向上を図ります。

会場、公述人番号:立川市女性総合センター、No.3

【ご意見の概要】

私は、多摩川上流域の住民の立場から、生態系保全の観点で意見を申し上げます。近年は台風被害が少なく、上流からの砂利が河床に堆積して水位が上昇しています。加えて、羽村取水堰では取水量が多く、魚道が機能せずアユなどの遡上が妨げられています。歴史的な堰の価値も理解しますが、魚類の回遊を確保するため、近代的で機能性の高い堰への更新が必要と考えます。また、白丸ダムでは約 65 年前から渓谷美を目的とした観光放流が続いていますが、人為的な流量調整は安全性や生物多様性の面で問題があります。奥多摩町および東京都も流量の一定化に理解を示しており、整備計画にはこれらの地域方針や現場の実情を反映させ、持続可能な河川環境の構築を強く要望します。

【発言録の要約】

- ・ 白丸ダムの観光放流は水位変動が大きく、生態系・景観・安全(流され事故など)に悪影響。66 年間見直されておらず再検討が必要。
- ・ 台風後の小河内ダムの大量放流が長期間続くのは、羽村取水堰の構造上の制約が原因で、安全上・環境面で問題。
- ・ 羽村取水堰(投渡木方式)は伝統工法だが、壊す→修復の度に多大な費用・取水不可→ダムの補填放流という非効率で環境負荷の高い仕組みになっている。
- ・ 取水堰上流では土砂堆積による氾濫リスクが住民の懸念となっており、河道掘削・生態系配慮が必要。
- ・ 白丸ダムの抜水点検で湖底の泥・腐葉土が大量流出し、長期間の河川白濁・泥堆積など深刻な環境悪化が発生。
- ・ 日原川支流からの濁水問題も増えており、源流域を含めた土地利用や事業活動の影響調査と対策が必要。
- ・ 全体として、治水・利水・環境のバランスを欠いた現状の運用を見直し、上流域の整備と環境配慮の強化を求めている。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見ありがとうございました。ダムや堰への要望については、施設管理者の東京都に情報提供させていただきました。

・堰・床止め周辺の水位低下対策

堰・床止め周辺の水位低下対策の実施に当たっては、過去に行った堰・床止め対策後の河川への影響を踏まえつつ、上下流における河床縦断形の維持、河床変動、動植物の生息・生育・繁殖の場等への影響度合いを推定した上で洪水リスクの低減を図るための適切な手法を選定します。

また、本対策実施後においても、洪水流下への影響について継続的にモニタリングを行い、その効果を検証した上で、著しい危険性の除去が必要な場合は更なる対策を講じるものとしています。

・流域全体を視野に入れた総合的な河川管理と流域全体で取り組む対策

水流や取排水、土砂収支の定量的な把握を通じて水循環や土砂動態に関する課題とその要

公聴会意見

因等を把握し、流域自治体、関係機関が一体となって、多摩川流域の健全な水循環の確保に取り組めます。また、気候変動による水害リスクの増大及び市街化の進展に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係機関が、主体的に取り組む社会を構築するとともに、多摩川流域の流出特性や流下特性を踏まえた既存施設の活用など、「治水」「環境」「利用」間で利益相反する課題について調整を進めます。

意見募集 No.1

【ご意見】

<P30>

今回の概ね30年の整備計画に「多摩川河川整備方針」に掲げた洪水調節施設の整備を位置付け、整備計画の目標流量を下げ、下流域の負担(河道掘削などによる緑化の減少など)軽減して欲しい。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

具体的な整備内容は、目標とする安全度を確保するのみならず、限られた費用と時間の制約の中での整備の実現性や地域社会への影響などを総合的に勘案して設定する必要があります。多摩川においては、沿川地域の都市化が著しいことや、首都圏の基幹的な物流網となる数多くの交通機関が渡河していること、利水用の取水堰や下水処理水等の排水施設が相当数あること等を踏まえれば、大規模な引堤や計画高水位の引き上げを伴う堤防のかさ上げは現実的ではないため、現況の堤防位置や高さ等の堤防計画を踏襲して堤防整備を進捗させるとともに、河道掘削により目標流量の達成を図ることを基本といたします。

意見募集 No.2

【ご意見】

<P52 1)～ P56>

1) 水防災意識社会再構築ビジョンについて

水防災意識を市民に啓発するにあたり、重要なのは危機感をいかに継続するかである。災害当初だけ被災を訴えるが、生活が挽回されると多くはその時の苦難を忘れてしまう。ハードの面構築に重点を置くだけではない工夫がもっと必要では？またそれは普段から自然環境に目を向けその変化や異変に気付く人の育成を図るべき。自治体などの発信や指示を受けるだけでなく普段から自分たちが暮らす場所の自然を正しく理解し、日ごろの防災意識と合わせて災害時に敏速な行動を起こせる”人づくり”も必要。目の前の多摩川だけでなく、それを囲み展開する人と水流をトータルに取り組むことを整備計画に盛り込んで欲しい。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

多摩川においても、「水防災意識社会再構築ビジョン」を踏まえ、沿川の市区と関係都県、気象庁、国土交通省関東地方整備局及び関係機関で構成される「多摩川・鶴見川・相模川流域大規模氾濫減災協議会」を設立しました。

本協議会では、多摩川で発生しうる大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目標として定め、各構成員が連携して実施する取組方針を定めています。

今後、取組を推進するとともに、訓練等を通じた習熟や改善を図る等、継続的なフォローアップを行っていきます。

また、「多摩川・鶴見川・相模川流域大規模氾濫減災協議会」の場の活用等により、関係自治体、公共交通事業者等と連携し、住民の避難を促すためのソフト対策として、各種タイムライン(防災行動計画)の整備とこれに基づく訓練の実施、地域住民等も参加する危険箇所の共同点検の実施、広域避難に関する仕組みづくり、マスメディアの特性を活用した情報の伝達方策の充実、防災施設の機能に関する情報提供の充実などを進めていきます。

意見募集 No.3

【ご意見】

最近の地球規模の温暖化の影響で雨の降り方も異常を期している現状を目の当りに見るにつけ今回の多摩川水系河川整備計画について、多摩川のそばに住んでいる者として住民が安全に生活していける計画だと思っていますが、2019年の東日本台風の時近くの小学校へ避難した経験上その時全く地域での情報がなく、不安を感じた者でありましたので洪水の時などの確実な情報など伝達がほしい事。

洪水がおきても水を安全に海に流す、たとえば地下にため込む施設の建設の計画が有るのか知りたいです。

多摩川の植物等がしっかり生き残る様な環境にしてほしいと願っています。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

洪水予報河川において、気象庁と共同して洪水のおそれがあると認められるときは水位等の情報を、関係都県知事に通知するとともに、必要に応じて報道機関の協力を求めて、これを一般に周知します。

水位周知河川において、洪水特別警戒水位に達したときは、当該河川の水位等の情報を示し、その旨を関係都県知事に通知するとともに、必要に応じて報道機関の協力を求めて、これを一般に周知します。

なお、平常時から洪水予報等に関する情報の共有及び連絡体制の確立が図れるよう、気象庁、地方公共団体、報道機関等の関係機関や民間企業との連携を一層図ります。

具体的な整備内容は、目標とする安全度を確保するのみならず、限られた費用と時間の制約の中での整備の実現性や地域社会への影響などを総合的に勘案して設定する必要があります。多摩川においては、沿川地域の都市化が著しいことや、首都圏の基幹的な物流網となる数多くの交通機関が渡河していること、利水用の取水堰や下水処理水等の排水施設が相当数あること等を踏まえれば、大規模な引堤や計画高水位の引き上げを伴う堤防のかさ上げは現実的ではないため、現況の堤防位置や高さ等の堤防計画を踏襲して堤防整備を進捗させるとともに、河道掘削により目標流量の達成を図ることを基本といたします。

多摩川らしい豊かな動植物の生息・生育・繁殖の場を保全・創出するため、定量目標(評価原点は全て平成27年(2015年)頃とする)を設定したうえで、河道掘削等の河川整備を推進します。

意見募集 No.4

【ご意見】

オオブタクサが外来植物とは知りませんでした。外来植物の具体的な例を知りたいです。(写真があると分かりやすいです。)

生えてしまった外来植物を除去するにあたり除去するだけでなく「どんな所に」「どうして」生えたのかについても考えることが大切だと思います。(在来種よりも強いのは何故かなど)

<P52-53>

洪水予報・水防警報の発表は報道機関の協力を求めてきたとありますがそういう時は台風や線状降水帯とか大雨の天気の時だと思います。テロップが何かで報道される予定でしょうか？

<P56>

主体的な避難といわれても避難所はどこなのか、避難する際、危険を伴わないのか、何を避難所に持っていくべきなのか、など事前に周知しておくことが必要だと思いますがいかがでしょうか？

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

「2.4 河川環境の整備と保全に関する現状と課題(2) 自然環境」P19～P21 において、各区分における特定外来生物の例を記載しています。

外来樹木の繁茂は、在来種の生育・繁殖の場への影響も懸念されることから、学識経験を有するアドバイザーに意見聴取いただきながら、対策を進めてまいります。

洪水予報河川において、気象庁と共同して洪水のおそれがあると認められるときは水位等の情報を、関係都県知事に通知するとともに、必要に応じて報道機関の協力を求めて、これを一般に周知します。

水位周知河川において、洪水特別警戒水位に達したときは、当該河川の水位等の情報を示し、その旨を関係都県知事に通知するとともに、必要に応じて報道機関の協力を求めて、これを一般に周知します。

なお、平常時から洪水予報等に関する情報の共有及び連絡体制の確立が図れるよう、気象庁、地方公共団体、報道機関等の関係機関や民間企業との連携を一層図ります。

水防警報河川において、洪水、高潮等によって災害が発生するおそれがあるときは、水防警報を発表し、その警報事項を関係都県知事に通知します。また、平常時から水防に関する情報の共有及び連絡体制の確立が図れるよう、関係機関との連携を一層図ります。

自治体に対し、避難指示等に関するタイミングや範囲、避難場所等、避難に関する計画について適切に定めることが出来るよう技術的な支援を行います。

意見募集 No.5

【ご意見】

<2.4 P20、4.3 章 P31>

数千羽のツバメがねぐらとして 利用する多摩川河口のヨシ原は、都内には数少ない希少で重要な環境だと思います。ヨシ原の保全に際し、ぜひ配慮していただきたい環境です。

※国土交通省 京浜河川事務所作成の『河川環境における目標設定について(令和7年3月5日)』の P24 ・「河川環境の保全・創出方針」には、多摩川の保全対象としてオオヨシキリやヒヌマイトトンボとともに、ツバメのねぐらについても記載があります。

※兵庫県豊岡市(近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所)では、河川のヨシ原再生や保全として、ツバメのねぐらに配慮されている事例もあります。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/kasen/saisei/nature.html>

<5.1.3(2) P45>

河道掘削について

夏季のヨシ原は、オオヨシキリをはじめとする野鳥の繁殖地として重要な環境で、繁殖地の喪失は生息数の減少に直結すると思います。場所の保全はもちろんのこと、ヨシ刈りは繁殖が終了した冬季に行うなど、工事時期も 生物に 配慮してほしいです。また、現地の調査を十分に行ってから工事計画や、工事実施をお願いいたします。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修正しました。

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修正しました。

意見募集 No.6

【ご意見】

<2章 P17>

【意見 1】「～水防拠点 2 箇所(多摩市関戸地先、福生市南田園地先)が整備完了し～」とあるが、多摩市関戸地先の水防拠点の詳細な位置と施設内容についてご提示いただきたい。

<4章 P29>【意見 2】「～目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率 1/70～1/80 の規模とし、～」とあるが、年超過確率 1/70～1/80 の規模の具体的な数値(降雨量:1時間雨量等)についてご提示いただきたい。

<4章 P29>

【意見 3】「～目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率 1/70～1/80 の規模とし、～」とあるが、多摩川水系多摩川、浅川、大栗川洪水浸水想定区域図(計画規模)については年超過確率 1/200 の降雨となっており、どちらが計画規模として正しいもかご提示いただきたい。

<4章 P29>

【意見 1】「～基準地点石原において河道整備において対象とする流量を 7,200m³/s とし、～」とあるが、P.7「多摩川水系河川整備基本方針」では、「計画高水流量を基準地点石原(多摩川)で 7,400m³/s」とある。この数値の違いは何かご提示いただきたい。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

多摩市関戸地先の水防拠点は、平成 12 年度まで(平成 13 年 3 月の河川整備計画策定まで)に整備された施設です。詳細な位置は、「多摩市関戸(右岸 34.1k)」です。施設内容は、「資器材置場、土砂置場等」です。

年超過確率 1/70～1/80 の規模の降雨量については、算出していませんので提示はできません。

年超過確率 1/200 は河川整備基本方針で定められた多摩川の最終的な計画規模であり、変更後の整備計画では今後 30 年程度にて実施する整備目標を年超過確率 1/70～1/80 として定めています。

基準地点石原における流量では、7,200m³/s が河川整備計画の目標流量で、7,400m³/s が河川整備基本方針で定めた計画高水流量です。

意見募集 No.7

【ご意見】

<1 1.1 多摩川の流域及び河川の概要 P2>

河口部の陸域の鳥類について、陸域の広大なヨシ原ではオオヨシキリ等が生息繁殖していること、水域ではハマシギをはじめとしたシギ・チドリ類の渡りの中継地になっていることが言及されている。これらに、加えて、絶滅危惧種であるセイタカシギの越冬、ツバメのねぐら形成といった貴重な生態系について、記載を求める。また、クイナやヒクイナといった希少種の繁殖の可能性が指摘されていることから、詳細な生態調査を計画に含めることを要望する。

<4 河川整備計画の目標に関する事項 4.3 河川環境の整備と保全に関する目標 P33>

33 ページに、河道掘削について、掘削形状を工夫するとされている。河道掘削に際しては、生態系への影響を最小限にするため、鳥類の繁殖期(3月～9月)およびツバメのねぐら形成時期(7月～8月)の施工を避けることを明記してほしい。特に、オオヨシキリ、ヨシゴイ、カルガモ、バン、ツバメなど、ヨシ原を利用する生物の生態に配慮した計画が不可欠である。

<5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項(2)動植物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出 P44>

施工時期について河川整備の計画に入れるべきと考える。鳥類の繁殖期、ツバメのねぐら形成時期は避けて施工すべきである。

<(3)人と河川との豊かなふれあい活動の場の保善・創出(P46)及びグリーンインフラの推進(P47)に関連>

(河川との豊かなふれあいの促進に向けて)アクセス通路の確保について、教育・調査活動に配慮した具体的な計画を明記してほしい。現状、羽田干潟などでは、堤防や遊歩道は整備されているものの、干潟へ安全に降りるためのアクセス通路が不足している。地域住民や NPO などが持続的に活動できるよう、こうした課題を解決する具体的な方策を盛り込むことを要望する。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修正しました。

ご意見を踏まえ、「4.3 河川環境の整備と保全に関する目標」P32 において、「人と河川との豊かなふれあい活動の場の保全・創出については、多摩川の水辺ならではの風景や自然環境を楽しめるよう、歴史的・文化的資源や行事・催事など、多摩川や地域の特徴を生かして水辺空間の拠点、アクセス通路、散策路等の整備を推進する。その際には、沿川地方公共団体が立案する地域計画等との整合を図り、活動の背景となっている良好な景観や自然環境の保全を考慮し、環境学習などの教育的な観点並びに調査活動およびユニバーサルデザインに配慮する」旨に修正しました。

意見募集 No.8

従来の治水事業は、「ダムや遊水地」で洪水の一部を保留する、「堤防の嵩上げ」による氾濫防止、「河床浚渫」による河川水位の上昇抑制が中心でした。

しかし、人口過密の多摩川中下流部において、流域治水対策の基本は、氾濫の集中を避けることだと考えます。すなわち、河川氾濫を上手く分散することしか出来ません。

そのために、私たち<多摩川と周辺環境を考える多摩区の会略称「多摩川の会」>では「学習会」・「見学会」・「懇談会」等で流域治水について学び合い、内水氾濫の原因と対策について考えてきました。

多摩川本流への流入量には限界があるので、河川氾濫水を上手く分散させるしかありません。

①多摩川本流の水位を下げるためには、堤防内の公園・グラウンド・空き地に地下貯水槽(タンク)を埋設する。(もっと積極的な地下貯水槽計画は、荒川本流の地下に埋設する計画「大深度」がありません。

②公園・公立学校の校庭・大型商業施設の駐車場等に、地下雨水槽(タンク)を埋設する。

③アスファルト舗装を雨水浸透アスファルトへ切り替え、雨水を少しでも地下に戻す。

④各家庭に雨水枡(タンク)の設置を奨励し、そのための補助金を出す。

⑤国交省や各自治体が保有している「災害対策排水ポンプ車」を増強し、管理・運用を一本化する。

等の「グレーインフラ」から「グリーンインフラ」への、地域住民を巻き込んだ施策が期待されているのではないのでしょうか。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

平野部の約9割が市街化され、田畑面積が非常に少ない多摩川における総合治水対策としては、主に支川の洪水処理や下水道施設(樋管・樋門等を含む)及び施策と本川での河道改修との連携や、流域の防災調節池、雨水貯留浸透施設、森林整備等の流域の保水・貯留機能を確保する取組を関係機関と連携して推進することにより、地域単位での水害リスク低減等が期待できることから、特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律により整備された法的枠組も活用しつつ、流域治水の推進を図ります。

流域治水を進めるに当たっては、「多摩川流域協議会」を活用しつつ、流域内の自然環境が有する多様な機能(グリーンインフラ)も活用し、治水対策における多自然川づくりや自然再生、生態系ネットワークの形成、川を活かしたまちづくり等の取組により、水害リスクの低減に加え、水でつながる豊かな環境の最大化に取り組めます。

意見募集 No.9

<2.4(2) P19>

【意見 1】六郷土手周辺のヨシ原は、5月下旬から9月上旬までの間、3000羽を超えるツバメのねぐらとなっています。多摩川流域では、日野周辺のねぐらを含め、この2か所です。レッドデータには掲載されていませんが、生息地として重要な場所であることを理解していただき、保全を進めていただきたいと思います。

<2.4(2) P19>

【意見 2】六郷土手周辺のヨシ原は、オオヨシキリ、ヨシゴイ、カルガモ、バンの繁殖地となっています。また、クイナ、ヒクイナの繁殖は確認されていませんが、繁殖期に継続して確認されていることから、繁殖の可能性がります。

地域の市民や団体と情報を共有し、より正確なデータを集め、保全を進めていただきたいと思います。

<4.3 P33>

【意見 3】「ヨシ原の拡大による陸地化が著しい箇所における河道掘削に当たっては・・・」とありますが、ヨシ原は、数千羽のツバメのねぐらとして利用されているため、また、オオヨシキリ、ヨシゴイ、カルガモ、バンの繁殖地となっていて、クイナ、ヒクイナの繁殖の可能性があるため、十分考慮して計画を立てていただきたいと思います。

<4.3 P33>

【意見 4】「ヨシ原の拡大による陸地化が著しい箇所における河道掘削に当たっては・・・」とありますが、工事に時期についても考慮していただきたいと思います。

ヨシ原の掘削工事については、ツバメのねぐらとなる5月下旬から9月上旬は避けることが望ましいと考えます。また、鳥類の繁殖期を考えると3月下旬から8月下旬は避けることが望ましいと考えます。

<2.4(2)および 4.3 P19 および P33>

【意見 5】絶滅危惧種についての補足

バン 東京都・絶滅危惧種 I B 類 (EN)

ヨシゴイ 環境省・準絶滅危惧 (NT) 東京都・絶滅危惧種 I A 類 (CR) 神奈川県・絶滅危惧 II 類 (VU)

オオヨシキリ 東京都・絶滅危惧種 I A 類 (CR) 神奈川県・絶滅危惧 II 類 (VU)

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修文しました。

補足いただいた絶滅危惧種を始めとする多様な種が生息・生育・繁殖できる自然環境の保全・創出に努めて参ります。

意見募集 No.10

【意見 1】

○多摩川河口部、南六郷の整備予定地の工事時期について

南六郷整備予定地のヨシ原、干潟、砂利のある場所では、野鳥の営巣活動が行われております。ここにはオオヨシキリ、コチドリが営巣しており、ヨシゴイの育雛も見られます。また多くのツバメがねぐら入りしており、繁殖時期における重要な拠点となっています。この時期に工事を行うことは、野鳥に干渉することになり、繁殖に悪影響を及ぼす可能性があります。そのため営巣時期の3月～10月は工事を避けることが望ましく、工事の延期をお願いします。

【意見 2】

○工事にあたり、生物の生息環境を配慮をするため、整備予定地の生物に詳しい専門家や地域住民との連携の必要性

今年は整備予定地で2頭のホンDIGツネを複数回観察しています。またこれからの時期は渡り鳥が渡来し、冬鳥が越冬します。近くにはヒクイナも頻繁に観察されてることから、整備予定地が貴重な生物の生息地域になっています。このことから施工にあたっては、生物の生息状況をしっかり把握し、生息環境を十分配慮する必要があります。そこでこの地域を見続け詳しい専門家や住民との連携を密にとっていくようお願いします。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見を踏まえ、「5.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修文しました。

また、工事着手前には専門家の意見を伺い、時期等に配慮した施工に努めます。

意見募集 No.11

<1章 P6-P7>

【意見 1】2019年東日本台風(台風19号)の多摩川の水位上昇による大規模な洪水被害を踏まえ「多摩川緊急治水対策プロジェクト」が2020年に策定され、流域全体における総合的な防災・減災対策を進めているとある。

河道掘削工事の年度毎の進捗状況はこれまで予定通りとはいえ、先送りされてきた感がある。新たな計画が実施された場合においては年度でそうしたことのないことをせつに願いたい。

<2章 P15-P16>

【意見 2】多摩川の堤防は、約8割が整備されているが、堤防・河道断面不足の区間があり、計画高水量を安全に流下させることができない状況にある。

これまでの堤防整備状況を評価したいが、未整備区域の速やかな進展をおおいに期待している。土丹に起因する課題への総合的な対策を講じていく必要があるともしているが、環境面も含めた取組を願いたい。

<2章 P17>

【意見 3】大規模な災害が発生した際の円滑かつ迅速な復旧・復興支援のため、関係自治体と連携を図りながら、浸水発生時における排水ポンプ車等災害対策車両が適切かつ効果的に実施するためのアクセス経路確保や排水機場等の耐水化、孤立化の回避対策、予備電源の確保などを進め、地域防災活動拠点を早急に整備する必要がある。これについては、とくに神奈川県や川崎市との間での寄り強い指導的な連携を望みたい。

<2章 P17>

【意見 4】2020年7月、「気候変動を踏まえた水害対策のあり方～「流域治水」への転換～」が答申された。多摩川でも「緊急治水対策プロジェクト」を着実に進め、流域においてはあらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の取組を加速させることとなった。流域治水の観点はおおいに期待しているところである。長期的計画に終始することなく、短期～中期計画での実施に期待するところ大である。

<2章>

【意見 5】本「計画」では、富士山、箱根火山、浅間山等の大規模噴火に伴う火山対策についてはほとんど触れられていない。数cmの降灰による水質悪化と生態系保持への影響、電源設備への影響等、多々あると思われるが、どのように考えているか。

<2章 P19、P23、P26>

【意見 6】自然環境の劣化が発生している。多摩川でも、河道の二極化が顕在していると指摘されている。狭い流路への洪水流の集中に伴う局所的洗掘や河床低下により滯筋が固定化され、冠水頻度が低くなった高水敷部(河川敷)の土砂堆積と樹林化の進行(河原植物の減少、外来植物の繁茂)など。一方、河川全体を見据えた環境の良好な景観の保全・創出の取組を維持・発展させる必要がある(瀬・淵、砂礫河原、ワンド・たまり、魚道などの整備)としている。一見相矛盾することであり、難しい問題だと考える。住民の人命と財産を守る立場からの社会的治水対策がなにより求められる。他方で環境維持も大切であるが、流路の変動を考えれば、植生などの生息・生育・繁殖は従との考えもあり得るか(絶滅危惧種の場合は移植もあるか)。この問題は4章P.28-29とも関連することであろう。

<4章 P28>

【意見 7】河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持…雨水の貯留・浸透を促進させる等の必要な施策を講じる。もっともなこと。関連して多摩川沿川の河川敷の地下などに貯留池やトンネル等の構造物を造ることで、根本的な洪水対策の一助となり得るのではと考える。

<4章 P29>

【意見 8】洪水に対する防止又は軽減目標…目指すべき治水安全度の水準は、石原基準地点において河道整備の対象とする計画目標流量を 7,200m³/s として、洪水を安全に流下させることを目的とする。気候変動を考慮した流量は、6,500m³/s から 7,400m³/s に変更されたが、7,200 から 7,400 への詳しい変更の意味はなにか。

<4章 P31-32>

【意見 9】多摩川らしい(?)河川環境の保全・創出を自然環境が有する多様な機能を積極的に活用して、地域の魅力の向上や防災・減災等の多様な効果を得ようとする「グリーンインフラ」により治水と環境の調和、地域振興の実現の貢献に努める。こうした姿勢は中長期的にもきわめて大切であると考え。積極的な方向性をもって取り組んでほしい。

また、生物の良好な生息・生育・繁殖の場の保全・創出の考え方で「代表区間」の設定、「堤防草原」「砂礫河原(自然裸地)」の保全・創出に期待。

<5章 P36>

【意見 10】河川整備(工事)の概要…多摩川での具体的整備内容は、多摩川が沿線地域の都市化が著しいことや首都圏の基幹的な物流網となる数多くの交通機関が渡河していること、利水用の取水堰や下水処理水等の排水施設が相当数あることを踏まえれば、大規模な引堤や計画高水位の引き上げを伴う堤防のかさ上げは現実的ではないため、現況の堤防位置や高さ等の堤防計画を踏襲して堤防整備を進捗させるとともに、河道掘削により目標流量の達成を基本とする。ともかく河道掘削を概ね 30 年という長期に先送りせず計画的に着実に実施してもらいたい。川崎市多摩区内と三沢川地区を中心とした個別の河川整備工事や維持管理については各表の該当箇所に譲り、ここでは省略する。

<5章 P55>

【意見 10】災害時の支援…水門・樋門を通じ多摩川に流入する支川(三沢川など)は、洪水時多摩川へ排水が困難となることがある。応急的排水対策として地方公共団体の要請により排水ポンプ車等災害対策機械を機動的活用、浸水被害の防止・軽減を図るとある。2019 年台風では川崎市との間で三沢川水門の開閉に関し、好ましい状況になかった経験がある。

よろしくお願ひしたい。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

緊急治水対策プロジェクトに引き続き、変更後の河川整備計画の内容についても計画的に推進してまいります。

土丹が露出した箇所においても対応を進めてまいります。

災害時の支援等は、引き続き自治体と連携してまいります。

流域治水を進めるに当たっては、「多摩川流域協議会」を活用しつつ、流域内の自然環境が有する多様な機能(グリーンインフラ)も活用し、治水対策における多自然川づくりや自然再生、生態系ネットワークの形成、川を活かしたまちづくり等の取組により、水害リスクの低減に加え、水でつながる豊かな環境の最大化に取り組めます。

ご意見のとおり、「4.河川整備計画の目標に関する事項」P28 に、「治水安全度の向上を図りつつ、動植物の良好な生息・生育・繁殖環境、水を基調としたダイナミズムを感じさせる良好な景観、自然と共生した人と河川との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出を目指す。」旨を記載しています。

限られた予算や時間で治水安全度を向上させるため、当面の期間は河道掘削や堤防整備を中心として目標流量を達成することとします。

7,200m³/s は変更後の整備計画における、気候変動を考慮した年超過確率 1/70～1/80 規模の目標流量であることに対し、7,400m³/s は気候変動を考慮した年超過確率 1/200 規模の計画高水流量です。

「5.1.3 河川環境と保全に関する事項(4)グリーンインフラの推進」P48 に「自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進」する旨を記載しています。

変更後の整備計画の内容についても計画的に事業を進めてまいります。

内水の排水についても着実に実施できるよう、自治体との連携を強化してまいります。

意見募集 No.12

<4章 P33>

【意見1】16～18行目 河口部周辺のヨシ原は、夏から秋は南方へ渡っていくツバメの大規模な埒となっており、渡り前の重要生息環境であるため、この点を加筆する必要があります。

【意見2】2～18行目 多摩川河口に隣接して羽田空港が存在しており、近年バードストライク対策が重要となっているため、鳥類の生息とバードストライク対策の両立を図ることが重要である旨を加筆する必要があります。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修文しました。

意見募集 No.13

<目次>

河川整備計画の位置付けや役割を冒頭で明確にさせていただきたいです。「多摩川河川環境管理計画」「河川整備基本方針」「多摩川沿川整備基本構想」等との関係性もわかりにくく、しっかりと整理して示していただかないと、ここで何について明言すべきかの判断がつかえません。

<1.1 多摩川の流域及び河川の概要 P2>

21～26 行で、河口から六郷橋までの環境について述べられていますが、セイタカシギ(環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類、東京都絶滅危惧ⅠB類)の越冬(一部繁殖の報告も聞いています)、ツバメのねぐら形成(日本野鳥の会の「全国のツバメのねぐらマップ」掲載)についても記載していただきたいです。

<2.4 河川環境の整備と保全に関する現状と課題(2) 自然環境①多摩川河口部 P20>

干潟の拡大傾向についての情報が10年前までのものであることが気になります。令和元年の台風の影響やスカイブリッジ建設等の大きな動きが考慮されていないように見えます。ここまでの章でも令和元年東日本台風についての言及はありますが、環境への影響に触れている箇所があまり見あたりません。粘土質のヘドロがかなり堆積して貝類に影響を与えているであろう点も考慮して、現状を正確に把握していただきたいです。「東京湾環境一斉調査結果報告」等もご参考にしていただければと思います。

また、高水敷の樹林化について、他のところで問題視されていますが、下流においては河畔林が堤防の保護やゴミの海への流出防止等にも役立ち、また干潟から葦原と河畔林が連続して存在することが生物多様性の確保に繋がっていると感じます。グリーンインフラに関する具体的な記述がすくないように感じるので、そのような点も記載していただけると良いと思います。

<2.5 河川維持管理の現状と課題 P23>

13～14 行、「必要に応じて補修等を行う必要がある」は「必要」が重複しているため表現を見直した方が良いと思います。堤防除草については、羽田水辺の楽校活動範囲において、毎日のように見回りがあるにも拘らず、樹木も生えてきて、会員や参加者が除去しています。早期発見のために誰が何をするのか、市民との連携を目指すのか見回りの方に依頼するのか、はっきりさせた方が良いと思います。

<2.6(4)治水と環境と利用が調和した川づくり P26>

「河川環境管理計画」によるゾーニングに関する記述がありますが、生態系保持空間の管理方法に無理があると感じます。現状では立入禁止となっているわけでもなく、不法占拠や不法投棄もあり、放置することが生態系の保持につながるとは思えません。人の影響を少なくするにしても、ある程度の積極的な管理が必要と考えています。ゾーニングの見直しだけでなく、管理方法の見直しも含めていただきたいです。

<4.3 河川環境の整備と保全に関する目標 P32～P33> 河川環境区分毎の代表区間について、主に絶滅危惧種等の名称を挙げていますが、区分毎に全域にその生物がいることを目指すように読み取れます。生物多様性の確保のためには、指標種がいるかどうかで判断するのではなく、どのような環境が指標種に求められているのかを把握し、環境そのものの多様性を守る必要があると考えます。20年～30年の長期的な視野での目標なのに、生物種を主にした指標で判断してしまうと、気候変動に見合わない目標になってしまう懸念があります。指標種が生息している代表区間のどのような環境を目指す

のかを明確にすることと、頻繁に現状把握と目標の修正を行える柔軟性を持った計画としていただきたいです。また、河道掘削については、鳥類等の繁殖期やツバメのねぐら形成の時期を避けて、周辺生物への影響の少ない施工を目指す必要があることを明記していただきたいです。〈5.1.3 河川環境の保全に関する事項(2)動植物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出 P44～P45〉

河道掘削形状の工夫のみでなく、生態系への影響が少ない施工時期を選ぶことも明記すべきと考えます。

また、二極化の対策として帯工が挙げられていますが、形状や表面の素材を生物が生息しやすいように工夫することを明記していただきたいです。多摩川右岸本町低水護岸でも袋詰め根固めブロックが使用されていますが、マイクロプラスチックの対策はされているのでしょうか。二極化に関しても、樹林化は原因ではなく過程なので、安易に伐採せず原因の追究も怠らないようにお願いしたいです。

〈(3)人と河川との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出 P46〉

左岸河口部は、河川へのアクセスが悪い場所、堤防で分断されて人の目線の届かない場所が多く、不法投棄は不法占拠の原因となっています。もう少しアクセスしやすく人の目が届くようにして、市民と川の分断を無くすことが、環境改善にもつながると感じます。地域の方が愛着を持てる整備をお願いしたいです。

〈5.2.3 河川環境の整備と保全に関する事項(6)環境教育の推進 P58〉

水辺の楽校プロジェクトの継続性確保について、イベント開催が継続性確保につながるとは思えません。水辺の楽校運営において困ることは、予算不足、事務の担い手不足、高齢化等をよく聞きます。それらはイベント参加者の関心と関係なく、実際にどのような困難があるか継続的に聞き取り、ニーズに合わせた対応をお願いしたいです。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

今後 30 年間程度で整備を行う内容を河川整備計画にて全体的に示しており、具体的な環境に関する事項を多摩川河川環境管理計画、主に高規格堤防の整備に関する内容を「多摩川沿川整備基本構想」にて示しております。

それぞれの種における生息環境についての記載は致しませんが、ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」P36 を、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修文いたしました。

ご意見を踏まえ、「1.5 令和元年東日本台風による洪水で生じた現象」P14 に、令和元年東日本台風による環境への影響と洪水後の自然の回復力について追記いたしました。

ご意見を踏まえ、「2.6 今後取り組むべき課題」P26 に「環境面では、保持すべき環境が消失・劣化している生態系保持空間やその他区間における管理手法の見直しや外来種の拡大抑制、利用面では住民ニーズの多様化に対応したゾーニングの見直しが課題となっている」旨を追記するとともに、多摩川河川環境管理計画中で引き続き議論を図り、河川環境管理計画及び自然再生計画の変更を検討して参ります。

「5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項(2) 動植物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出」P45 に記載した「多摩川らしい豊かな動植物の生息・生育・繁殖の場」の保全・創出を目標として、整備を進めてまいります。

ご意見を踏まえ、「5.1.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」P36 において、「設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施する」旨に修正しました。

ご意見を踏まえ、「5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項(3) 人と河川との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出」P48 において、「散策、スポーツ利用、川を基軸とした地域交流が特に盛んである河川空間においては、自然と共生した人と河川との豊かな触れ合いの一層の促進に向けて、現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行う」旨に修正致しました。

ご意見を踏まえ、「5.2.3 河川環境の整備と保全に関する事項(6) 環境教育の推進」P60 において、「水辺の楽校プロジェクトの継続性確保については、主催する活動メンバーの高齢化や担い手が確保できないなどの課題に対して、活動団体の実態やニーズを把握し、河川管理者や関係自治体との協働のもとで、市民と河川環境のふれあいに関するイベントを実施することを通じて、多くの人が水辺に触れ合う機会を提供し、水辺環境に関心を持つ人を増やしていく」旨に修正いたしました。

意見募集 No.14

初めて整備計画を拝見しました。多くの方が真剣に取り組んでいるのを感じます。その中読後の率直な意見を述べさせていただきます。

整備計画(変更)案は多摩川を危険な存在として扱っている印象があります。危険に対処するため川を構築物としてコントロールしようとしているようです。

身の回りの河川工事を目にするところ川や水辺から人が遠ざかっていると感じます。川沿いに綺麗な遊歩道や公園が出来て利用者が増えても川の流に手を触れる人はいません。さらに河川工事後の川は水路化して「のっぺらぼう」になり川原は工事後に手が入る事無く芦や雑草で覆われます。人と川を遠ざけています。利水の役割が薄れた多摩川は厄介者にされているようです。多摩川は怖いもの厄介者でなく皆に愛され誇りと思う存在であるべきです。子供や若者に夢と希望を与えて次世代に引き継ぎたくおもいます。多摩川を良くするために長所を伸ばす事を主眼に計画を立ててください。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

本計画では治水対策のみならず自然環境や人と河川の豊かなふれあいの場の保全・創出についても位置づけ、治水・環境・利用の調和を図った川づくりを目標としています。

ご意見を踏まえ、「6.3 次世代へ継承する持続可能な川づくりの推進」として、「これまでの川と人の長い歴史を振り返り、先人の知恵に学ぶとともに、学識経験者等が有する新たな技術や知見に基づいた取組についても積極的に試行検証することにより、効果的で持続可能な整備を着実に進めます。設計、施工、維持管理及び水辺の利活用等の全ての過程において、関係機関や流域住民等と連携し、「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりを進め、次世代へ継承する」旨に修文いたしました。

意見募集 No.15

多摩川の今後の川づくりへの意見

八王子市内には多摩川・浅川に流れ込むまでの中小河川がたくさんあります。私が居住している西寺方町を流れる山入川(美山)小津川近郊は圏央道八王子西インターを中心に川口土地区画整理組合による大規模な開発計画物流拠点整備計画の基盤工事が進められております。50ヘクタールもの樹木を伐採し山を削り谷を埋め改変し造成地を整備する計画です。更に周辺での土地の買い占めも囁かれ、更なる開発が予想されます。この様な特殊な周辺状況の中で生活している住民にとって、“水”に対する懸念が強くなり河川の維持管理等関心も高くなっています。加えて昨今の気候危機による豪雨災害・土砂災害など、どこでも起こりうる状況です。保水対策も含め水・川に対する安全対策を強く希望し、意見をのべます。

<意見>

○「多摩川水系浅川圏域河川整備計画(東京都管理区間)平成18年6月東京都」の河川整備河川整備計画を見直し現状に合った計画の再検討(小規模河川では30mm/時降雨対応となっているが少なくとも50mm/時対応にすべき)が必要と考えます。

○前段で述べた開発計画からの雨水はすべて山入川(美山)に流れ込みます。小津川・山入川の治水上の安全確保の為、堆積土砂の除去河床掘削等、河川改修の早期実現が重要と思います。

○山入川・小津川の上流域には5社の採石場があり50年に渡り砕石をしている。砕石採掘後の穴に他所から出た残土を搬出し収入源にしている会社もあるようです。残土の中に有害物質が含まれている可能性もあり不安です。後年それが溶け出し、河川汚染の原因になる事もあり現状ではどの様な残土なのか不明です。河川の汚染を防ぐため搬入される残土がどこから来たものか、有害物質が含まれていない等、基準をルールで整備が必要と考えます。

○河川の水量及び水質・汚水対策の為、涵養林の指定を積極的に行い山林を守ってほしいと思います。

【河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針】

頂いたご意見は東京都に共有させていただき、今後の川づくりの参考にさせていただきます。

平野部の約9割が市街化され、田畑面積が非常に少ない多摩川における総合治水対策としては、主に支川の洪水処理や下水道施設(樋管・樋門等を含む)及び施策と本川での河道改修との連携や、流域の防災調節池、雨水貯留浸透施設、森林整備等の流域の保水・貯留機能を確保する取組を関係機関と連携して推進を図ります。

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
○						地球温暖化の影響により集中豪雨、強力な台風の発生が頻発するようになり、水害への備えが喫緊の課題となっていることを考えると、対応雨量を増加する今回の計画変更を強く支持します。	目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率1/70～1/80の規模としています。
○						近年常態化したゲリラ豪雨のデータ実績から算出された流水量増という計画が実行されればしばらくの間は一定の効果は得られると思いますが、将来的にそれを上回るゲリラ豪雨の可能性についてどのように捉えていますでしょうか。そういった事態が発生したタイミングで検討着手なのか、すでに検討を進めているのか、今の河川仕様からは流量をこれ以上増やすことにも限界があるのか…など。	
○						鮎がたくさん遡上し、護岸のないエリアが増えてウナギやスッポンまで、多様な生物が増えてほしい。洪水の対策も両立してほしい。	外来種の定着による生物多様性の低下を抑制し、更なる多摩川らしい自然環境を創出することにより、生物多様性をより高めていくことを目指します。
○						段階的に生物多様性の環境が改善されており、非常に良いと思います。	
○						多摩川の自然環境は年々衰退しています。特に上流部では砂、砂利の流下により水棲生物(虫、魚類)の繁殖が阻害されています。上流からの砂、砂利の流下、堆積により川中の石が埋まり水中昆虫の産卵が以前に比べると減少しています。魚類も川で自然に繁殖するうぐいなどが、産卵する場所である河床が硬くなり、または、産卵してもその上に砂が流下して卵の上に被さり卵が死滅してしまうような状態で、近年うぐいの生息数も減少しています。やはり対策としては、砂、砂利の流下を防止するのが一番と考えられます。下流の鮎の産卵場所も以前と比べると砂も多く河床も硬く、少なからず影響があるのではないのでしょうか。この砂、砂利は山の荒廃だけが原因とは思われないと思います。	多摩川全川においては、上下流の連続性を確保する魚道環境を特に代表する主として、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類を指標種とし、生息・繁殖に適した連続性の確保について、必要に応じて魚道付近の河道整正等により対策を講じるとともに、河道環境については、河道掘削の際に安全性や景観に十分に留意しつつ、必要に応じて浅場の河床が浮き石となる様に重機による河床耕うんを行うなどにより、質の向上を図ります。
○						中原区は危険性の高い地域であるため、もっと抜本的な治水対策をし欲しい。	河川の整備にあたっては、適正な本支川、上下流及び左右岸の治水安全度のバランスを確保しつつ、段階的かつ着実に整備を進め、洪水、津波、高潮等による災害に対する安全性の向上を図ります。
○						令和元年台風以降、家を選ぶ時も、河の近くは選ばないようにしていたので、整備計画があり少し不安は和らいだ。	
○						適切に、スピード感をもって推進してほしいです。	
○						祖父母の代から生まれも育ちも南河原地区ということもあり、鶴見川や多摩川が氾濫した歴史を様々な機会で見してきました。川崎駅のあたりはちょうどカーブがきついため、川崎市側の堤防の強度が今後も長く課題になるのだらうと思います。現在想定している整備内容は是非進めていただきたいですし、結果の確認と評価もまた市民に公表していただければと思います。	
○						まず近隣で暮らす人々や活動する事業者にとって安心は優先されるべきであり、段階的か構造的な災害対策を講じていただき大変ありがたいと感じています。一方で、昨今のレジリエンスなまちづくりやサステナブルな環境構築がテーマとして取り上げられる中で、河川、多摩川の氾濫をハード的に解決するだけでなく、自然の力をいかして氾濫自体も活かしたりいなして被害を大きくさせないようなやり方の方が、整備費や運用費用(お金だけでなく、その都度エネルギー含め人工的な対応は増えるという意味で)を抑制することで持続的な対応になるのではと考えています。そのためには、周辺住民、や事業者も理解すると共に、個々に出来る対策もしないといけないと感じています。	
						○ 降雨や津波のよる堤防決壊、溢れによる洪水防止政策	
						○ 整備の為に、川の水が汚れている時がある	良好な水質の保全、動植物の良好な生息・生育・繁殖の場の保全・創出、良好な景観の保全・創出や人と河川との豊かな触れ合い活動の場を保全・創出する等、多摩川らしい河川環境の保全・創出を総合的な視点で推進します。
○						整備内容を拝見しまして京浜河川事務所の皆様のご努力に感謝いたします。しかしながら、整備内容に、高規格堤防整備、水衝部対策、河道掘削、高水護岸整備、築堤、など水害に対して河川構造を丈夫にする対策に力を入れられているように思われます。近年上流部から下流まで多摩川は砂、砂利の流下が多く河床が上昇しております。堰などでは当然その砂、砂利が堆積し河道掘削などの対処が必要になっています。またこの堆積により河川周辺への洪水の危険性も高くなってきているのではないのでしょうか。元を絶たなくてはだめとの考えから、上流部で発生している砂、砂利の対策をして河床を下げるのが下流部での洪水対策にも繋がっていくのではないのでしょうか。今後、東京都と連携しながらの有効な整備を期待します。	多摩川においては、沿川地域の都市化が著しいことや、首都圏の基幹的な物流網となる数多くの交通機関が渡河していること、利水用の取水堰や下水処理水等の排水施設が相当数あること等を踏まえれば、大規模な引堤や計画高水位の引き上げを伴う堤防のかさ上げは現実的ではないため、現況の堤防位置や高さ等の堤防計画を踏襲して堤防整備を進捗させるとともに、河道掘削により目標流量の達成を図ることを基本としています。
○						現状の改良で本当に良いか、目線が近すぎないか、別途検討の余地があると思います。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)		
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	ご意見	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
						○	河川の整備すべき範囲がかなり広範になる中で、どのように議論すべきか検討が難しい中でこのような形からでも、意見集約を図る取り組みを今後も継続していただきたい。	設計、施工、維持管理の各段階で、河川環境情報図などを踏まえて、必要に応じて市民団体等との意見交換をしつつ、河川環境の整備と保全を実施します。
						○	こういった広く意見を取っていただくことの感謝です。 一市民としてもやれること協力出来ることを考えて行動していきたいと思います。	
						○	六郷橋付近のヨシ原の撤去が行われていますが、ここは野鳥の貴重な生息環境であり、ツバメの大規模な滞場所にもなっています。治水は重要ですが、自然環境の保全も考慮して、撤去した面積と同程度のヨシ原を治水に影響がない箇所に創出するなど、自然環境への配慮を検討してほしいと思います。	
○							戸建ても多い地域で、水害が起きた時の被害は大きいと予想しています。環境の変化に合わせて、特に築堤を施すことに賛成です。	標準的な堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間について、堤防の嵩上げ・拡幅を行います。
○							河川事業に携わっている方々には日々の感謝をお伝えしたいと思います (私は粕江のダム決壊経験者です) 昔(昭和初期頃まで)は多摩川河川敷で優良な砂利が採れたそうです また世界中では砂不足が問題になっているようです 川底を深くするために砂利採掘を復活させる 若しくは川底をさらった泥や土を資源化出来ればSDGs的に良いのでは、と前から思っていました 実現は難しいでしょうか もし既に取り組んでおられたら大変失礼で申し訳ない話ですが…	河道掘削により発生する土砂は、堤防整備や災害への備えとしての堤防沿い用地の盛土、周辺のまちづくり等の他事業への有効活用に努めます。
○							東北大震災対策で各地にできた高い防潮堤だと景観が害されますが、サイクリングロードや自然の景観も守られると期待できました。 東北大震災のような河口から津波が侵入するケースの想定についても解説して欲しいです。	高潮及び地震後の津波遡上への備えとして、多摩川の河口から六郷橋までの区間において、高潮堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間等について、嵩上げ又は拡幅を行います。
○							川崎河港水門について、文化財としての有識者の見解は理解致しますが、周辺の堤防領域は形状変更とともに速やかに高規格堤防を計画していくべきものだと考えています。	高規格堤防の整備に当たっては、まちづくり構想や都市計画との調整を行うことが必要であり、関係者との調整状況を踏まえつつ順次事業を実施します。
○							整備内容に関しては、素人なので良し悪しの判断ができません。 以前の台風で家の近所まで水が来たので、避難所に避難しました。また、友人宅は床下浸水になってしまい、何人かの方は街からでていってしまいました。 多摩川そのものの整備も大切ですが、万が一氾濫した時のことも、あわせて議論していただけるとありがたいです。	被害の最小化を図る観点から、災害時において河川管理施設保全活動、緊急復旧活動、水防活動等を円滑に行う拠点及びこれにアクセスする管理用通路や車両の転回場等について、関係機関との調整の上、洪水時に周辺地域が浸水した場合にもこれらの活動が円滑かつ効果的に実施できるよう整備を行うほか、災害復旧のための土砂等資材の備蓄、排水ポンプ車等災害対策車両の適切かつ効果的な運用について検討を進めるとともに、排水機場等の耐水化、孤立化の回避対策、予備電源の確保等を進めます。
○							洪水対策は最優先事項だと思いますが、本流と並行して細い流れを作り、ビオトープのような水生昆虫や小動物が生活出来るような部分も整備してもらいたい。	治水対策や河川環境の保全・創出に当たっては、例えばワンド・たまりを保全する等、河道内の貯留機能についても留意して整備を行います。
						○	現在は河川敷が草むらようになっていて何にも使えない・使ってない場所が多々ありますが、整備をして市民のために使える場所にしていただくよう開発を進めていただけると幸いです。	歴史的に「多摩川河川環境管理計画」の果たしてきた重要な役割を認識し、今後とも、本計画を踏まえ、多摩川が有するかけがえのない自然と文化を子々孫々に継承すべく、自然的及び社会的状況を踏まえ、関係自治体、流域住民等との共通認識のもと秩序ある保全・創出と利用を図ります。
						○	河川敷から近いところに住んでいたため多摩川で遊んで育ちました。私が小学生の頃は調布はリトルリーグをはじめ少年野球が盛んでした。河川敷にもグラウンドが幾つもあり市民大会なども盛況でした。ぜひ野球の街・調布を再現して欲しいです。 それと多摩川で水遊びができるくらいに水質の改善、安全環境の整備を行なって欲しいです。子供たちに魚釣りをしたいです。サイクリングロードを走って欲しいです。花火を楽しみにして欲しいです。調布の自然を満喫して欲しいです。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
						<p>私はもともと東京で生まれ育っています。20年以上前からすると、緑が減ってしまっていることに寂しさを感じています。人間は生まれながらに土、水、緑に癒しを感じるようにできていると考えているので、自分の子ども、そして更に未来の子ども達にとって東京の中でも安らげる場所は守って行けるようにしていきたいと思っています。</p> <p>河川の整備計画とは論点がずれてしまっていますが、自然保護の観点はいつまでも失わないで頂きたいと感じています。</p>	歴史的に「多摩川河川環境管理計画」の果たしてきた重要な役割を認識し、今後とも、本計画を踏まえ、多摩川が有するかけがえのない自然と文化を子々孫々に継承すべく、自然的及び社会的状況を踏まえ、関係自治体、流域住民等との共通認識のもと秩序ある保全・創出と利用を図ります。
						<p>多摩川は笠取山に発生し羽田で海に注がれる、東京という大都会を流れる清流です。世界に自慢できる河川だと思います。過去に戻らぬようにしていきたいものです。ぜひ、今の努力が未来にも続くようお願いします。</p>	
○						六郷用水路口の場所から上流50メートル程で悪臭が発生しており悪環境となっています。異常な高温が生物や住環境に悪環境を生じさせてます。溜まり水を発生させない流れるよう検討してください。	多摩川が有すべき水量とその変動及び水質等の水流の実態を把握するよう努める一方、人と河川との豊かな触れ合い活動の場を保全・創出できる多摩川を目指して、必要に応じて良好な水量とその変動及び水質(底質を含む)の実現を目指した検討を行います。
○						生き物が暮らせる環境の維持をお願いします	多摩川らしい豊かな動植物の生息・生育・繁殖の場を保全・創出するため、定量目標を設定したうえで、河道掘削等の河川整備を推進します。
○						多摩川水系の環境(動植物の生息・生育・繁殖)の定量目標は良いと思いました。	
○						水衝部対策、河道掘削いずれも必要なことは分かるが、いずれも植生を除去してコンクリートで埋める画像で説明されている。これでは市民の納得感が得られないのではないか。 もう少し樹木や植生に配慮した見栄えを盛り込むべきではないか(一般市民は緑の見栄えに拘る人が多いので)。	
○						区間3に住んでいます。 アオサギや亀、カワウ、カルガモ、カラス、キジ、沢山の野生動物の生活が見られます。 どうか、野生動物の住処を奪わない方法をお願いします。	
○						同じ多摩川でも区間によってさまざまということを前提に、環境や利水に関する各区間の拡大面積目標と手法は理解しましたが、時間的な目標(タイムスケジュール)などはあるのでしょうか。いずれもがこの先30年以内に、ということでしょうか。	河川環境は、工事等の実施後に直ちにその効果が発現せず環境の形成に時間を要する場合もまた、河川の作用によって常に変化するものであることから、短期的な変化だけでなく、中長期的、広域的な変化も含めて取組を評価するものとし、必要な対策を実施する場合は、河川の作用による変化に応じて順応的な管理を行うものです。
○						多摩川の河川敷を歩いていると、人工的に整備されているところも多い一方、適切に草刈りなどがされず荒廃して、そこにゴミの不法投棄があつたりするのを目にする。外来植物が繁茂することにより、在来植物が減少し、昆虫や鳥の生息に影響を及ぼす可能性がある。多摩川の環境を守るには土木工事がすべてではなく、維持することも必要だと思う。	
						○ 環境破壊に繋がらないような自然環境保持を重視する。	
						<p>各所にある堰に手を入れ、働いてない魚道のある堰にはスリットを入れて上下流の寸断をもとに戻す。 北海道のように。 特に昭和堰、羽村堰、川井堰。 ○ 管轄は違うかもしれないが羽村堰の板堰が流れるのは経費の無駄</p>	堰等の河川横断工作物の魚道の一部において、魚道への誘導施設が有効に機能しておらず、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類の遡上が困難になっていること等を踏まえ、滞留の支障となっている箇所において連続性の確保や河道環境の質の向上を図ります。 羽村堰への要望については、施設管理者の東京都に情報提供させていただきました。
○						近年、台風の影響が少ないことから上流域において砂利や砂が堆積し、河床の上昇とともに水位が高くなる傾向が見られます。その影響に加え、羽村取水堰では取水される流量が多く、魚道の機能が不十分であるため、アユなどの遡上が妨げられている現状があります。これまでの歴史的構造物としての価値も理解しますが、今後は魚類の回遊や生態系への配慮を最優先に考え、機能性の高い近代的な取水堰への更新も含めた検討が必要と考えます。	堰等の河川横断工作物の魚道の一部において、魚道への誘導施設が有効に機能しておらず、アユ・マルタ・ウキゴリ等の回遊魚類の遡上が困難になっていること等を踏まえ、滞留の支障となっている箇所において連続性の確保や河道環境の質の向上を図ります。
○						魚道は整備されているが、実際に機能していない。その為鮎 含め遡上できない箇所があるので、改善が必要 羽村の堰下で 魚が上がれない。	
○						自然環境対策として、魚道の改善をお願い致します。特に二ヶ瀬宿河原堰は魚が遡上しやすい魚道を両サイドにつくってほしい? 二ヶ瀬に限らず、多摩川には、堰が多いですから改修を魚、アユの視点で行ってほしいですね?屋久島に生息している”アユ”は多摩川出身ですよ〜?上流部の白丸ダムのらせん状の魚道も、魚目線の魚道ではないですよ。魚が動けば、子供たちも動きますよ。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
	○					堰がいくつもあり、魚たちが行き来できていない。 再生水が入っているの、水温が冬でも高い。これは仕方ないとしてその再生水のphが時々異常	堰等の河川横断工作物の魚道の一部において、魚道への誘導施設が有効に機能しておらず、アユ・マルタウキゴリ等の回遊魚類の遡上が困難になっていること等を踏まえ、滞留の支障となっている箇所において連続性の確保や河道環境の質の向上を図ります。
	○					桜鱒や鮎の遡上が激減している。	特定外来生物のアレチウリ・オオキンケイギク・オオカワヂシャ等の植物や外来植物のオオブタクサ・セイバンモロコシ・ハリエンジュ等の増加により、在来種の生育・繁殖の場への影響が懸念されることから、上記の対策に当たっては、市民団体や自治体との連携により、外来植物の防除等をあわせて行います。
	○					どんな外来植物を排除するのか説明が欲しいです。(排除する対象として分かりやすく外来と呼んでいるだけかもしれませんが、)外来と言っても従来の環境にどう影響を及ぼすのかによって、排除した方が良さそうかどうかが変わるためです。	
						整備計画を拝見し、多摩川の「魅力」だけでなく、災害時の「怖さ」のようなものもしっかりと日常的に伝えていける機会にするためにも、より多くの方が多摩川河川敷に訪れること、目を向け耳を傾けることが必要だと改めて感じました。 一方で河川敷は距離的には近いのにまちからのアクセス・動線が良くないエリアもあり、街の人が川に気づきづらい、つまりは多摩川の魅力も怖さも感じない日常というのが多くの生活者の感覚ではないかと思えます。 ○生活者からすると護岸整備の治水や環境などの国交省の取組は災害などのマイナスを減らすいわば守備的に見える施策が多く、当然と捉えられがちで、とても大事なことであるのに情報発信してもなかなか伝わりづらいのではと考えます。 かわまちづくり支援計画など官民連携での積極的である意味攻撃的な取り組みをさらに推進し、整備・規制・運用への柔軟性や地域への発信力(多摩川のブランディングに取り組むくらいの気概でも良い)を高めることで、より多くの方に多摩川を知って・感じて・ジブンゴト化してもらい機会づくりの促進に期待します。	地域の景観・歴史・文化及び観光基盤などの資源や地域の創意に富んだ知恵を活かし、自治体、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組として「かわまちづくり」を推進します。
	○					河川のすぐそばまで行ける箇所や、河川敷のグランドなど神奈川側が東京側より少なく感じる。 子どもを連れて川遊びなどしたいので、神奈川側も河原を整備して遊べるようにしてほしい。	現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行うこととしています。
	○					防災中心の整備計画も重要であるが、地域住民や観光客にとってのレジャー的な散歩やサイクリングロードの整備も、健康、観光、交流、地域活性化、と複合的な価値創造となり非常に高い投資効果がえられると考えます。 特に上流域はサイクリングロードが断片的で折角の景観を楽しむことができなくなっており、片側だけでも良いので上流域から河口までのスムーズなサイクリングロードの整備も検討していただければ幸いです。	
	○					是政橋から関戸橋遊歩道が府中側だけでなぜ稲城市側には無いのか？検討下さい	
	○					みんなの多摩川なので、多摩川で釣りをする場所や多摩川眺める場所などの整備も併せておこなってほしい。	
	○					河川敷の道を広くしてほしい。 荒川ぐらい広いと子供を歩かせやすい。	
	○					河川の整備に伴い、川の両岸に人とサイクリングロードを同時に整備することを望みます。特に是政橋より西側の崖の下付近で整備が行われた際にそうした道の設置がなされなかったことはとても残念に思いました。現在の府中側にある道は週末になると混雑しすぎており通行が危険な状態です。	
	○					土手の道路の整備。 健康志向の高まりで、ウォーキング、ジョギング、サイクリングをする人が増えており、安全な通行のために、道幅を広げる整備を要望します。	
	○					広大な多摩川。どこか一部でも、河原に簡単に降りられる場所があれば、と思います。	
	○					人が川または河川敷に入れる場所を充実してください。	
					○	近年環境が過酷になっている為気軽に散策するには現在の多摩川は休憩やアクセスなど整備が必要	
					○	自然豊かで生きものが住みやすい環境づくり。 生態系も重視して欲しい。 ○護岸整備された箇所ばかりでは、生きものが減ってしまう。 ワンドであったり、気軽に川面に近づけるような場所は残して欲しい。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						○ 高齢者が河川敷に上がるには、足場や通路の整備が不足していると思います。	現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行うこととしています。
						○ グラウンドは十分ある一方で、街中にはないサイクリングロードばかりが制限されてきていることが非常に残念です。散策路はもちろん重要なので、多摩川河口付近のように十分道を広げるか、可能な箇所で散策路とサイクリング用と道を明確に分けて欲しい。また府中と調布市で歩く側の変更が起きているのは気がつかない人もいて大変危険です。 今後は施設やイベントを増やすよりも、自然環境を活用し保護していく街づくりを期待しています。	
						○ 多摩川の八王子市小宮町付近の、谷地川との合流点について、サイクリングロードが連続しなくなってしまうので、なんとかつなげていただきたい。	
						○ 日野橋・立日橋近辺をよく通ります。 1.日野側のサイクリングロードをよく利用するのですが、夜は暗くて怖いです。街灯がもう少し多いと、女性でも安心安全に通れる道になるのではないかと思います。 2.このあたりの多摩川は、中央線やモノレール、中央高速など多摩川にかかる人工物と遠くに見える山々などの自然との調和が素晴らしいです。いかにも多摩！といった風情で唯一無二の景色では？とひそかに思っているのですが、気軽に座ってぼーっと景色を眺められる場所がほとんどありません。どちらかという人を寄せ付けられないような、ポテンシャルを活かしきれないような、そんな気がします。 ○ 浅川のように ・ふれあい橋のような歩行者&自転車専用の橋 ・気軽に座れるブロック敷きの護岸 ・ちょっとしたベンチ があると、もっと愛される場所になるのではないで「うか。	
						○ 人工物で整備するのではなく、自然との共存や住民への癒しを提供する観点で、グリーンインフラに高い整備をしてほしいです。	多摩川らしい豊かな自然環境を保全・創出するため、河川整備における多自然川づくりや、砂礫河原・干潟等の創出により多摩川らしい自然環境の保全・創出を実施するとともに、首都圏の貴重なオープンスペースにおいて魅力ある水辺空間・にぎわい創出のため、地域と連携し、かわまちづくりや水辺の楽校等の取組を推進します。
						○ 多摩川だけ特別と言うことなく、日本全国どの河川にしても全国共通の管理・運営ルールに則って管理して頂きたいと思います。堤防の天端通行禁止・制限は認められません。	洪水、津波、高潮等の発生時において、河川管理施設の機能が適切に発揮されるよう、維持管理を行います。
						○ 大体の概要は分かりました。 河原から、土手を通るサイクリングロード近くまで、伸び切った雑草や樹木が増え、河原までが、遠くなってしまったなあ、と感じています。	堤防の機能を適切に維持していくために、変状や異常・損傷を早期に発見すること等を目的として、適切に堤防除草、点検、巡視等を行うとともに、河川巡視や水防活動等が円滑に行えるよう、管理用通路等を適切に維持管理します。
						○ 多摩川をよく走っているサイクリストです。道が狭まってしまわないよう、また見通し改善のためにも、雑草の刈り払いをきれいに、こまめにお願ひできると助かります。 安全のために左側通行のルールの周知徹底もお願いします。	
						○ 河川整備も大切ですが、土手の草刈りを以前年3回行っていましたが、民主党が政権の時2回にしたと聞いています最近草の成長が早く犬の散歩等多摩川に行く時サイクリングロードの自転車が見えなかったり大変怖い思いをしています、どうか草刈りを増やして下さい	
						○ 以前より気温が高いためか、河川敷の草の伸び方が早い。草刈りの頻度を増やしてほしい。 河川増水後の河川敷ごみ回収を確実に実施してほしい。	
						○ 初めて引越してきたとき大師橋方面なのですが味の素裏あたりとか少し道がせまくなったり、多摩川の夜道が暗くてこわかったです。河川沿いと草むら側両サイドに落ちないように夜、なにか点灯するライト？日中の太陽光利用してエコ？とか？光があると危なくないかな一つおもいました。昔猫ちゃんものんびり寝転がったり癒しな姿みれてたけど今みかけなくて寂しいです。	河道内の土砂堆積の進行は、流下能力の低下や水門・樋門等の排水機能の低下等の支障をきたすおそれがあるため、必要に応じて土砂の除去を実施します。
						○ 土砂が流入して川底が埋まってしまっている。	
						○ 水害に対する整備は理解出来るが、とにかく全体的に浅くなってメリハリの無い河川になってしまっている。堆積した砂利を取り除くなど、以前の多摩川に戻って欲しい。	
						○ 上河原堰下流の中洲について。草木が生い茂っているが増水時の流れに悪影響がないか心配です。	
						○ 良く分かりませんが、多摩川の上流のほうの河川敷が名前はわからないが、丈の長い植物で川岸が荒れて来ています。	河川管理上支障がある河道内の樹木等については動植物の生息・生育・繁殖の場及び景観に配慮しながら必要

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)		
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	ご意見	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
○							河川敷内で流水の阻害要因になる可能性のある樹木は、幼木の内に処理すれば、非常に少ない費用で撤去できます。大木になってから多大の経費をかけて、大作業で処理されているのが現状です。税金の無駄使いです。コスト意識を徹底して頂きたい。	に応じて伐採等の適切な対策を講じて、洪水の流下の阻害とならないよう管理します。
					○		河川敷内の樹木の増殖が、自然状態に放置されています。中には、洪水時の流水阻害要因になる大木が、多数育っています。河川敷内の植生の管理をお願いします。	
					○		河川敷の木が育ちすぎて家に入りそうです。どこに連絡していいかわかりません。	
					○		多摩川の松のうち枯れているものがあります。害虫対策等の保全をお願いします。	
○							いつも河川を整備していただきありがとうございます。大雨が断続的に続くことがある昨今では水害に対する恐怖を感じる場合があります。堤防を高くしたり強靱にすることで街中に水が大量に流れる恐れは軽減される一方で、日野橋が破損したことは生活に大きな影響を与えました。多摩川は道路、鉄道共に多くの橋がかかっており、複数が破損した場合には生活に大きな影響を及ぼします。水流を弱くする対策を講じられるのであればぜひご検討いただきたいと思います。	橋梁は、老朽化の進行等により機能に支障が生じるおそれがあるため、施設管理者と合同で定期的に履行状況の確認を行うことにより、施設の管理状況及び施設に影響を及ぼすような河床の変化や兆候等を把握します。
○							多摩川の水害ハザード圏内に住んでいます。水害に対する安全性が高まることにより、街の価値が高まり、新たなまちづくりに繋がると思うので、防災に力を入れてほしい。	迅速かつ確実な住民避難や水防活動等が実施されるよう、関係機関との一層の連携を図ります。
○							調布市上石原、多摩川河川近くの戸建に指定難病の母親と暮らしております 令和元年東日本台風の際に、大変な思いをして、避難所に避難しました この辺りに被害はありませんでしたが、安心して生活出来るよう、お願い致します	早めの避難誘導や安全な避難場所及び避難路の確保など、関係する地方公共団体において的確な避難体制が構築されるよう技術的支援等に努めます。
○							浸水想定区域内人口約183万人に対する治水情報の拡散・働きかけをもう少し強化すべき。	洪水時に避難行動につながるリアルタイム情報として、スマートフォン等を活用した洪水予報等をプッシュ型で直接住民に情報提供するためのシステムについて整備に努めるとともに、洪水時に住民等が的確なタイミングで適切な避難を決断できるよう、住民一人一人の防災行動をあらかじめ定めるマイ・タイムライン等の取組が推進されるよう支援します。
○							川沿いの住民です。河川敷内の各種イベントや花火の騒音が年々酷くなり、迷惑を受けています。河川敷を皆で楽しく利用することには賛成ですが、利用ルールの整備と管理の徹底を切にお願いします。	河川周辺環境の維持については、水質の保全、動植物の生息・生育・繁殖の場、良好な景観及び人と河川との豊かな触れ合い活動の場の保全等に配慮します。
○							野鳥が好きな樹木を河川敷に植えたらどうでしょう？	
					○		意図して意識を向けずとも、まちで暮らしているだけで自然と多摩川に触れ、その重要性を実感できるような仕組みが作れたらなと思います。	
					○		サイクリング、ランニングには速度制限をかけてほしい。ノーリードの犬を放つ行為、野良猫を集めて餌付けする行為、ゴミの不法投棄、火の利用、ドローンの遊びには制限をかけてほしい	
					○		多摩川で野鳥観察をしていると、以前より鳥類の種類が減っている一方、ドバトやカラスが非常に増えている。ドバトやカラスの餌付けをする市民がいたり、多摩川で魚釣りをして釣り糸をそのままに放置している市民を見かけることがある。市民の環境に対する意識が低いことも気になる。環境保全について呼びかけも必要だと思う。	
○							昔の調布市内の多摩川は清流で鮎が採れて、屋形船が出る程の観光地、別荘地だったと聞きます。それから生活排水で汚染された最悪な時期を経て、今は大分多摩川の水も綺麗になったそうですが、玉川上水や神田川流域のような河川敷のない、正に人工的な川の状態ではなく、現在の多摩川の自然な状態を壊さない手法で、更に自然を回復させてほしい。	流水機能については、現況の流水機能を維持するために河川管理施設だけでなく許可工作物等も含めた既存の施設等を積極的に活用して適切な水量と水質(底質を含む)の確保とその保全を目指します。
○							私が子どもの頃は多摩川はヘドロで汚い川でしたが調布や成城からよくロケに来ていました 土手や川原でよく遊んでいましたし、サイクリングコースで自転車の練習をしたのも良い思い出です 渡しの名残りの貸ボート屋がすっかりなくなってしまったのは淋しいところです 今では鮎が泳ぐほどキレイになり、化学が進化すると川は逆にキレイになるんだ、とびっくりしています	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
		<input type="radio"/>				多摩川には豊かな動植物がいます。ヒトの暮らしを守るために、動植物を犠牲にすることのないよう望みます	動植物の生息・生育・繁殖の場やその質が長期的、広域的に目標とする水準を下回る場合には、河道の特性等を再度検証した上で、必要な対応を実施します。
		<input type="radio"/>				多摩川は身近で自然に触れ合える所だと思うので、生態系を保全するのは重要だと思います。これからも自然が保たれていると嬉しいです。	
	<input type="radio"/>					今回の資料については、図やイメージを多用し要点がまとめられており、専門的な内容でも視覚的に理解しやすい構成になっていると感じました。特に、流域全体の治水(洪水対策)と、自然環境(生態系)、そして市民の憩いの場形成を両立する視点は、本計画の大きな特徴であると思います。令和元年台風の影響が大きかった二子玉川においても、今後もこの視点を維持し、景観や安全性への配慮を最優先としながら、民間による利活用がしやすくなるような、主にハード面での整備支援をいただきたいと考えます。特に、水道・トイレ・電源・自動販売機などの基礎インフラの整備を進めていただくことで、イベントや日常利用の利便性が大きく向上すると期待しています。	河川法に基づく占用許可に関しては、河川利用を計画的に行うために「多摩川河川環境管理計画」に基づき、施設管理者及び占用者に対して許認可時に適切な指導を行います。
	<input type="radio"/>					多摩川の利活用に伴い最低限のトイレ・水道の設備を河川敷に設置して頂きたいです。	
			<input type="radio"/>			トイレ、水飲み場、日影を増やしてほしい	
				<input type="radio"/>		有料でよいのでドッグランを作してほしい。	
				<input type="radio"/>		トイレ、水飲み場、日影を増やしてほしい	
				<input type="radio"/>		車や自転車でのアクセスがしやすくなる様 駐車場、駐輪場を設置して欲しい	
				<input type="radio"/>		人と自転車の動線はもっと区別して欲しい。	
				<input type="radio"/>		駐車場の増設	
				<input type="radio"/>		来場者増につながるため、河川敷駐車場の増設	
				<input type="radio"/>		有料駐車場も欲しいです	
				<input type="radio"/>		干潟も豊かにしてほしい。足や水着が洗える設備も増やしてほしい。	
				<input type="radio"/>		以前は川原で花火やバーベキューが出来たのに、今では禁止されていてしまいどこにも楽しむ場所がなくなってしまったため監視を置く、連絡先記入させる等して復活させてもらえないでしょうか	
				<input type="radio"/>		奥多摩や青梅は青梅線沿線と並行して国道がある観光地としてはめずらしく都内から2時間ほどで訪れることができる場所です。しかし、河川敷にある駐車場は少なく市街からくる方の要望で多いのは駐車場の増設整備をしてほしいという意見をよく耳にします。ぜひご検討ください。	
				<input type="radio"/>		四季を感じるので、よく遊びに行ってます。 台風の後などの荒れてる河川敷の整備をしてくれて、ありがたいと思っています。	
				<input type="radio"/>		気軽に行けて安全なキャンプ場を河川敷に作って頂きたいです。キャンプ場でなくても河原で自由にキャンプができるよう検討していただくと幸いです。	
	<input type="radio"/>					多摩川には豊かな自然があり、渡り鳥にとっても重要な場所。多摩川でSUPが行われているが、渡り鳥に悪影響がないか心配である。水質については、局所的に汚れている部分もある。	水面の利用に当たっては、地域の歴史文化、河岸周辺の利用や、環境を考慮しながら、安全で秩序ある水面利用を自治体、関係機関等と連携して推進します。
	<input type="radio"/>					多摩川の上流部のラフティングやキャニオンリング、カヌーに外国人の運営者が出てきている、ごみの問題が、多摩川全体の汚染水になりかねない！今は無料で多摩川を彼らは利用しているわけだし、ごみ処理費用を含めて有料化すべきです。多摩川を利用して稼いでいる団体は23団体ときいています。ほとんどが東京都以外からの出稼ぎ者ですよね。上流部では地元民とのトラブルも発生していますよね！ちなみに魚釣りに訪れる人は日帰り鑑札・年間通し鑑札あるわけだから、平等の原則から見たら不公平だね！外国人もこういうところはよく見てるね？	
				<input type="radio"/>		遊覧船や海上タクシーの運行	
				<input type="radio"/>		船で川を巡るようになってほしい	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
						○ 国交省と東京都の管理区域の境が青梅市の調布橋で、別れていますが新しい遊びとか外国人の問題、特に東南アジア・中国・韓国などには日本の法律を破った外国時に対して、法律を守っている外国の方も、いるわけだから、毅然とした態度で臨んでほしい。日本人に対しても同じ態度で臨んでください！多摩川は都心部のましてや皇居の水なんだということですよ？	水面の利用に当たっては、地域の歴史文化、河岸周辺の利用や、環境を考慮しながら、安全で秩序ある水面利用を自治体、関係機関等と連携して推進します。
						○ 上流部ではラフティングが大騒ぎしながら川を下ってくるので静かな川辺を取り戻して貰いたい。	
						○ 河口部で行われているウェイクボードのボート音(騒音)に迷惑しているが、なぜ制限されないのかが不思議。	
○						河川そのものと同じくらい河川に面した住宅の高さ制限を気にしてもらいたい。景観と日照不足から来る河川、河川敷への影響を懸念して止まない。	沿川の景観と一体化した多摩川八景、多摩川50景など、多摩川らしい風景の保全を図ります。
	○					多摩川近くに住む子どもたちが、多摩川を故郷と感じられるよう、多摩川らしい自然を残しつつ、安心して遊べるような環境を整備してほしいです。	河川の魅力や洪水時等における水難事故等の危険性を伝え、安全で楽しく河川に親しむための正しい知識と豊かな経験を持つ指導者の育成を支援します。
	○					堤防工事により川が浅くなり水遊びの安全について対策をとってほしいです。	首都圏に残された広大な水と緑の空間である多摩川を利用する人々の増加に伴い水難事故が多発していることに対処するため、河川管理者並びに、地方公共団体、警察署、消防署等と連携し、防止に努めます。
	○					多摩川河口の干潟は、特に大田区側には、多様性に富んだ干潟があり、生物の種類も多く確認されています。アシ原やそこに隣接する干潟を連続する環境として整備するとともに、子どもたちが安心して自然観察や体験ができる場所としての施設も含めた整備を希望します。	子供たちだけでなく地域の人々の多摩川における自然環境や水辺を利用した総合学習の支援を行うため、自然を生かした水辺や施設の維持・保全に努めます。
					○	水辺の楽校のボランティアに参加したいのですが、申し込み経路がわかりづらい。募集中と謳っているが、申し込みページや、活動内容(頻度やルールなど)の詳細がない。Facebookが中心になっていて、他の媒体からでも閲覧したい。アクセスしやすい仕組みを作って欲しいです。	水辺の楽校プロジェクトの継続性確保については、主催する活動メンバーの高齢化や担い手が確保できないなどの課題に対して、活動団体の実態やニーズを把握し、河川管理者や関係自治体との協働のもとで、市民と河川環境のふれあいに関するイベントを実施することを通じて、多くの人が水辺に触れ合う機会を提供し、水辺環境に関心を持つ人を増やしていきます。
	○					カワラノギクなど希少生物の保護活動を多くの人に周知していく取り組みを今まで以上に行なって欲しい。	活動団体の実態やニーズを把握し、河川管理者や関係自治体との協働のもとで、市民と河川環境のふれあいに関するイベントを実施することを通じて、多くの人が水辺に触れ合う機会を提供し、水辺環境に関心を持つ人を増やしていきます。
	○					このアンケートで都内の水道水の20%が多摩川からきていると知れて良かった。よく子どもを連れて二子玉川付近の多摩川に遊びに行くが、都内にあって透明度が高く様々な生き物を見ることができる多摩川の存在は子育て世代にかなり有難い存在だと思う。ただ、兵庫島公園の藻が多すぎたりゴミが落ちているので、改善を希望します。生活に密着した多摩川の環境改善のためにボランティアが必要だったら参加しますので、周知してほしいです。子どもの教育のためにも良いと思うので。	
	○					自分の住んでいる近辺の多摩川の状態 環境はみて理解できていますが、上流 下流はあまり行くことなくわからない点が多いです。やはり多摩川は上流から下流まで一連で考えていかないと。そのために一連の見学会を開催いただきたいと思います。	
					○	川の大切さを知る機会を沢山企画してほしい。	
					○	二子新地在住です、若者むけBBQと子ども向け野球サッカーはよいですが、大人むけの視点がほしい。一般に子どもかシニアに対する施策は色々あるが、40-50代も楽しめる、集える、地域参加できることがない。一番税金を払っているのに！はともかくですが、ゴミ拾いの会があれば参加したいです。二ヶ領用水もお願いします。	
	○					環境を守るために多摩川クリーン大作戦に参加しますが、回数が少なく、特に草が生えやすい時期にはポイ捨ても多くなっているので、ゴミ捨て場の設置と回収が必要なのではないかと思えます。	河川には、テレビ、冷蔵庫等の大型ゴミや家庭ゴミの不法投棄が多いため、地域住民の参加による河川の美化・清掃活動を沿川地方公共団体と連携して支援し、河川美化の意識向上を図ります。
					○	ゴミ、不法投棄対策	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)		
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	ご意見	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
						○	私は多摩川にかかる橋の橋脚へのスプレー等による落書きがとても気になります。目黒通りが伸びて新しく橋がかかるようですが、新しい橋、前からある橋、ともに汚損させない手だて、できるだけ手間と費用をかけずに回復させる方法ないのでしょうか。	
						○	洪水が起こらない対策を	
						○	豪雨時の治水のために、多摩川により多くの水が流せるようにすることは必要だと考えますが、豪雨時に一度に多摩川に雨水が流れ込まないように、雨水が地中に浸透するための取組を進めるべきと考えます。多摩川流域は都市化が進み、舗装された地域が多いため、雨水が一度に河川に流れ込みますが、透水舗装を増やしたり、世田谷区で進めている雨庭づくりのような取組を広げて、雨水が地中に浸透していくようにすることが必要です。そのために、野川などの支流も含めた多摩川の整備計画を検討する必要があります。	平野部の約9割が市街化され、田畑面積が非常に少ない多摩川における総合治水対策としては、主に支川の洪水処理や下水道施設(樋管・樋門等を含む)及び施策と本川での河道改修との連携や、流域の防災調節池、雨水貯留浸透施設、森林整備等の流域の保水・貯留機能を確保する取組を関係機関と連携して推進することにより、地域単位の水害リスク低減等が期待できることから、特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律により整備された法的枠組も活用しつつ、流域治水の推進を図ります。
						○	流域全体でどう捉え、かつ河川の範囲とその市街地にその資源をどう誘因し、相互に活用すべきかを、利用者やその自治体だけでなく、様々な立場のステークホルダーを巻き込みながら議論しつつ、その中でもきちんと何かしらのリソースを提供する事業者、団体に対して、きちんとその提供リソースに関する応分の価値を還元する仕組みづくりを検討すべきと考える。	市民団体等が多種多様な目的をもって活動している多摩川において、市民団体、非営利機関(NPO)等のほか、地方公共団体や地域の教育委員会、学校、民間企業等との連携・支援を積極的に図り、河川協力団体や地域住民、関係機関等と一体となった協働作業による河川の整備・管理等を行います。
						○	河川敷は外来種にほぼ優占されている状況で、ここ数年でだいぶ悪化していると感じています。浅川合流地点付近に住んでおり、外来種駆除・ゴミ拾いを週に1, 2回程度、自発的に行っています。今年6月に勤務先に申し入れて社会貢献活動として多摩川保全をする事に承認を取り付けました。今後、大栗川合流地点、多摩川原橋下などに保全エリアを拡大し、参加者を徐々に増やして行こうと考えています。多摩川の保全は行政や専門家だけでは成立せず近隣住民を中心とした活動とするような仕組みを作りたいと考えています。	
						○	川沿いでの親水環境があることは非常に良いと思う。一方、どうしてもボランティア的な活動が多く、スケールやより強い認知促進につながっていないとも感じる。商業的に過ぎるものも行けないが、より民間投資などの活力を呼び込むような取組も行われているのでより加速して、世界に先駆ける水大国としての事例や仕掛けを創造してほしい。	
						○	我々の利用水源としても勿論であるが、様々な生態系が生きている環境であり、そういった自然の生態系と人が寄り添い親水環境を整え向き合いことが重要かと思えます。そのためにも、よりこういった活動が広く周知され、すでに様々な活動がなされているものの1人で多くの方が主体的に関わる仕組みが必要と考えます。	
						○	市民の皆が参加出来、かつ参加者にメリットが生ずる社会でなければ成立しない。(保育、介護の低収入も含め) ボランティア清掃にも参加者への対価報酬的なもの、お米券、ペイペイ給付、お土産、等を配布すべき。 公共イベントの従事者に役所の者が来ているが、彼らは有償で休日出勤手当までもらい、ボランティアは無報酬はあり得ない。	
						○	河川環境を今後保全するためには、民間企業の関与が必須だと考えます。例えば勤務先がボランティア活動を業務の範疇と考えて、ボランティア活動の為に有給休暇を支給する等、協力してくれると、参加者はもっと増えると思います。国側から企業へ協力を求める等、もっと大々的に発信してもらえると嬉しいです。生物多様性向上へ向けた取組は民間企業も関心ないわけではありませんが、どう対応したら良いかわからないだけです。	
						○	自然豊かな河川敷を作り上げていくことが重要だが、行政だけに頼るのは限界がある。地元住民がもっと河川清掃や草刈りまたイベント実施により川に親しむ機会づくりに関心を向けて欲しい。また、その際には行政がこれらの取組を支援する仕組みを充実させて欲しい。	河川管理者と地域住民を繋ぎ多様な主体の自主的運営を司る人材育成の支援を図り、市民等の川での社会貢献活動を支援していくとともに、川の左右岸や源流から河口までの上下流の住民及び自治体間の交流活動及び上流部の清流の保全活動等に対する支援を行います。
						○	奥多摩湖のダム、水と緑のふれあい館何度かいったことがあります。住んでるところが大師橋近辺なのでダムからずーと多摩川に流れて東京湾に。 人、動物、鳥、魚、昆虫、植物、みんなの多摩川	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)		
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	ご意見	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
○							河川内での樹木の繁茂など環境保全区域指定の悪影響があると思います。(イノシンなどの活動も最近は見受けられ住民は不安を感じています。) 福生側の堤防の整備などが必要になってきたのも樹木や砂利採集がなされていないため河川の幅が狭められてそれらの関係ではないかと思っています。	河川管理者が河川における鳥獣保護管理の主体となるものではありませんが、河川における獣害を発見した場合には、市区町村等へ通報することで、情報収集の支援をするよう努めます。 河川管理上支障がある河道内の樹木等については動植物の生息・生育・繁殖の場及び景観に配慮しながら必要に応じて伐採等の適切な対策を講じて、洪水の流下の阻害とならないよう管理します。
○							よく多摩川に行くので、工事の現場は見えていました。(区画2の、京王線の橋の近くによく行ってます)せっかく工事を行っているのに、工事の看板のみで実際になんのために工事を行っているのかイマイチわかりづらい印象がありました。工事看板の近くにQRコードなどで、この工事がなんのために行われているのかを示されているとより良いのかなと思います。生態系保持空間についても素敵な取り組みだと思うので、自然を守りつつも氾濫を防ぐ、バランスをうまく取って工事を進めてほしいです。また、川遊びがしやすい空間(キャンプとかになると洗剤の汚染など進みそうなので、鴨川みたいな夕涼み出来るような浅瀬など)水深がわかると、より良いのかなと思います。	工事施工へのご意見をありがとうございます。 関係機関や流域住民等と連携しながら「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりに取り組むことを目標としています。 現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行うこととしています。
○							本計画において、気候変動による水位の大きな変化について盛り込まれているのか、理解したい。 また、流域全体での自然資本の活用について整備計画にどのように盛り込まれるべきか、またその際に利水活動とどう紐付けらべきかも検討すべきと考えます。	目指すべき治水安全度の水準は、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した年超過確率1/70～1/80の規模としています。 多摩川における取組に限らず、多摩川流域において健全なる水循環系の確保として自治体等が行う雨水貯留浸透対策の強化や森林整備等により、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。
○							多様な生物の生息環境の保全・創出に力を入れて定量目標を達成し、今よりも生物多様性を高めてほしい。 また、多くの人に河川環境への理解を深めてもらい、水辺に触れ合う機会を増やしていくためにも水辺の楽校プロジェクトを今以上にバックアップして継続性確保に努めてほしい。	外来種の定着による生物多様性の低下を抑制し、更なる多摩川らしい自然環境を創出することにより、生物多様性をより高めていくことを目指します。 水辺の楽校プロジェクトの継続性確保については、主催する活動メンバーの高齢化や担い手が確保できないなどの課題に対して、活動団体の実態やニーズを把握し、河川管理者や関係自治体との協働のもとで、市民と河川環境のふれあいに関するイベントを実施することを通じて、多くの人が水辺に触れ合う機会を提供し、水辺環境に関心を持つ人を増やしていきます。
○							河川環境や干潟があまりにも脆弱になっている。 たとえば貝類が育つ環境になっていないにもかかわらず東京湾を含めた対策を取らず、狭い干潟で業者も個人でも貝を獲り尽くそうとしている。また河川敷の多くがゴルフ場・野球場・競馬練習場・バーベキュー場といった一部の利用者の為の施設に環境改変させられているのも、生態系保全の面からも利用者も狭める面からも問題だと思う。	東京湾の汚濁対策として関係機関と協力し東京湾への流入負荷量の削減に努めます。 歴史的に「多摩川河川環境管理計画」の果たしてきた重要な役割を認識し、今後とも、本計画を踏まえ、多摩川が有するかけがえのない自然と文化を子々孫々に継承すべく、自然的及び社会的状況を踏まえ、関係自治体、流域住民等との共通認識のもと秩序ある保全・創出と利用を図ります。

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
○						魚や水生動物が生息しやすい環境を整えて欲しい。 土手から河原まで草ぼうぼうではなく定期的な刈り取りをし水辺に親しみやすい環境を維持してほしい	多摩川らしい豊かな動植物の生息・生育・繁殖の場を保全・創出するため、定量目標を設定したうえで、河道掘削等の河川整備を推進します。 河川管理上支障がある河道内の樹木等については動植物の生息・生育・繁殖の場及び景観に配慮しながら必要に応じて伐採等の適切な対策を講じて、洪水の流下の阻害とならないよう管理します。
○						1, 外来植物が広範囲に繁殖しているのが気になる。特にオオフサモ・アレチウリ・オオキンケイギクなど。 2, 野草採りの方でマナーの悪い方を見かけます、特に細いタケノコ採りに来る人の中には、大量にタケノコ採る。皮を捨てていく。中には商売にしている人もいます。 3, 多摩川では直火禁止なのに直火焚き火をする人がいます。流木を燃やす人もいます。 4, 直火でBBQする人も多い。BBQ道具・ゴミを残したままの方もいます。 5, 悪質な訪問者も多いので国土交通省管轄の河原・河川敷でも直火禁止と同じようにBBQ禁止にして欲しいです。	特定外来生物のアレチウリ・オオキンケイギク・オオカワヂシャ等の植物や外来植物のオオブタクサ・セイバンモロコシ・ハリエンジュ等の増加により、在来種の生育・繁殖の場への影響が懸念されることから、上記の対策に当たっては、市民団体や自治体との連携により、外来植物の防除等をあわせて行います。 河川には、テレビ、冷蔵庫等の大型ゴミや家庭ゴミの不法投棄が多いため、地域住民の参加による河川の美化・清掃活動を沿川地方公共団体と連携して支援し、河川美化の意識向上を図ります。
				○		今の自然と面影を壊さない範囲で、地元の市民が川の自然に接したくなるような整備がいい。ゴルフ場だけは絶対反対。	現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行うこととしています。 河川法に基づく占用許可に関しては、河川利用を計画的に行うために「多摩川河川環境管理計画」に基づき、施設管理者及び占用者に対して許認可時に適切な指導を行います。
○						河川工事の影響か、全体的に砂利が溜まってしまい、浅くなってしまっている。 深みや淀み、大岩やテトラなどが無いと、小魚が増えない。	河道内の土砂堆積の進行は、流下能力の低下や水門・樋門等の排水機能の低下等の支障をきたすおそれがあるため、必要に応じて土砂の除去を実施します。 連続する瀬・淵については保全を図っていきます。
○						河口から奥多摩までサイクルロードを整備して欲しい ・河口から終点まで途切れない ・支流含む(浅川など) ・人車別 ・自転車は一段低い河川敷可 ・通勤路としても活用可 ・東京都の水活との連携 ・川沿いの憩いの場を創出し拡大する ・ロード沿いに観光資源を開発促進できる 道の駅 テラス+日陰+水道+トイレ トイレはデザイン性のあるもの 地元特産品カフェ 史跡案内 河川敷公園 バードウォッチング(すでに有名) ・愛媛県しまなみ海道の現状が参考になります ・多摩エリアへの行政投資として都心にはない地元に着した開発内容 ・都民の観光増進策(自転車を活用した運動) ・施設メンテナンスに各自治体参加→しまなみ海道を参考に	堤防の機能を適切に維持していくために、変状や異常・損傷を早期に発見すること等を目的として、適切に堤防除草、点検、巡視等を行うとともに、河川巡視や水防活動等が円滑に行えるよう、管理用通路等を適切に維持管理します。 現状における水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の見える化を行い、関係機関との連携のもとで、水辺空間の拠点やアクセス路、散策路等の整備を行うこととしています。 大臣管理区間(万年橋)よりも上流側の奥多摩は東京都管理区間のため、東京都に情報提供させていただきます。

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針	
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望		
						○	<p>ご意見</p> <p>1, 土手の草刈りの件。川崎市側と国土交通省側の草刈りの境目が残っていることが多いので綺麗に草刈をして欲しい。理由があって段を付けて草を刈っているのであれば教えて欲しい。 2, 上河原堰上流のコンクリート護岸(川崎側)流木が漂着したままなので撤去して欲しい。流木にたまった漂着物が汚い。 3, 上河原堰上流の釣り人の釣台が木に括りつけてあります。これは許可されたものですか？ 4, 河川敷のグランドの設置物(小屋・タイヤ・ネットなど)令和元年の台風の時、上流からタイヤ・ネット、テントなどが流されてきました。増水した時に流されないように固定するか撤去するかお願いしたいです。</p>	<p>堤防の機能を適切に維持していくために、変状や異常・損傷を早期に発見すること等を目的として、適切に堤防除草、点検、巡視等を行うとともに、河川巡視や水防活動等が円滑に行えるよう、管理用通路等を適切に維持管理します。 河川管理上支障がある河道内の樹木等については動植物の生息・生育・繁殖の場及び景観に配慮しながら必要に応じて伐採等の適切な対策を講じて、洪水の流下の阻害とならないよう管理します。 河川法に基づく占用許可に関しては、河川利用を計画的に行うために「多摩川河川環境管理計画」に基づき、施設管理者及び占有者に対して許認可時に適切な指導を行います。</p>
	○						<p>多摩川の水は以前にも増してきれいになっている感があり、非常にありがたいと思っています。 現在の気候変動のなかでは、空梅雨への対策、気温上昇による農業の通年化などによる利水時期の長期化対策を講じる必要があると考えることがあります。またダムなどの老朽化などの状況がわからず、この先長い目での利水、治水対策を講じていただければ幸いです。</p>	<p>流水機能については、現況の流水機能を維持するために河川管理施設だけでなく許可工作物等も含めた既存の施設等を積極的に活用して適切な水量と水質(底質を含む)の確保とその保全を目指します。 関係機関や流域住民等と連携しながら「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりに取り組むことを目標としています。</p>
						○	<p>高知の仁淀川や四万十川などの清流を見ると本当に羨ましいと感じる。清流や溪流(と沈下橋)が観光資源になるのが一番の理想ですが、川を魚が遡上できない堰の存在は無くすなり、何とかしてほしい。</p>	<p>多摩川らしい良好な景観の保全については、そのほとんどが秩父多摩甲斐国立公園区域である上流部の渓谷美、多摩川を代表する中下流部及び中上流部の砂礫河原が広がる景観、下流部の都市景観と調和した水辺景観、河口干潟の景観の保全を図るとともに、沿川の景観と一体化した多摩川八景、多摩川50景など、多摩川らしい風景の保全を図ります。 堰等の河川横断工作物の魚道の一部において、魚道への誘導施設が有効に機能しておらず、アユ・マルタウキゴリ等の回遊魚類の遡上が困難になっていること等を踏まえ、滞留の支障となっている箇所において連続性の確保や河道環境の質の向上を図ります。</p>
	○						<p>生態系への影響調査をしっかりと実施すること。 外来生物については、国内移入種についてもきちんと議論すること。 また事後の調査を継続して実施し、常にブラッシュアップすること。 調査結果については、すべてオープンとし誰でもオンラインで閲覧できること。 以上が望ましい。</p>	<p>河川水辺の国勢調査や定期的な縦横断測量等を含め、工事や外来種対策などの実施の際には、整備や対策による効果が検証できるように河川環境のモニタリングを実施します。 環境モニタリング等により得られた調査結果により、更なる環境データの充実を図るとともに、GIS化等によりデータベースの整備を行い、インターネット等を活用した情報提供体制を充実させます。</p>
	○						<p>とにかくゴミが多すぎる。川の中にバイクが何年も放置されていたりするのはいぎなものか。 定期的に土手の草刈りが実施されているが、適切なのか疑問だ。昆虫や鳥類のエサ場となっている。特に草の実は冬季の鳥類の貴重な栄養源である。秋の草刈りは必要とは思えない。</p>	<p>河川には、テレビ、冷蔵庫等の大型ゴミや家庭ゴミの不法投棄が多いため、地域住民の参加による河川の美化・清掃活動を沿川地方公共団体と連携して支援し、河川美化の意識向上を図ります。 堤防の機能を適切に維持していくために、変状や異常・損傷を早期に発見すること等を目的として、適切に堤防除草、点検、巡視等を行うとともに、河川巡視や水防活動等が円滑に行えるよう、管理用通路等を適切に維持管理します。</p>

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
○						私は浅川合流地点付近に住んでいるものです。2019年の台風19号の時に近隣の戸建て住宅が数軒床上浸水しました。私の家は比較的新しい為、床がある程度高い設計になっていたため浸水を免れましたが、後少し浸水す手前でした。雨水管理総合計画で雨水浸透ますを作ると市は言っていますが、落川交流センターの北側(川側)ハリエンジュ並木を伐採し、約1000m2弱の側溝に浸透ますを設置してほしいと考えています。市にまずは相談してみます。	浸透ますの設置の要望については、道路計画に関する関係機関に情報提供させていただきます。
	○					水源林をスギヒノキといった針葉樹ばかりでなくブナ等の広葉樹林帯を育ててほしいです。	水源林に係る関係機関に情報提供させていただきます。
		○				河川整備が25年経って変更計画が実行されるのは有難いことですが、運用に関してもぜひ検討していただきたいです。約65年前に溪谷美を保つために始まった観光放流ですが人為的に水位が変動するので早朝には護岸に水が流れた後がくっきりと残り、かえって景観を悪くしています。また、人為的に5t/secの水が流れるので水辺に置いたものが流される光景をよく目にします。奥多摩町と東京都交通局により締結された観光放流ですが両者も水量の一定化の重要性を理解されており、地域住民や漁業関係者も変更を望んでいます。羽村取水堰の投渡堰が歴史的価値のあることはわかりますが適切な運用をするためには近代的な堰に作り変える必要があると思います。台風の度になぎが流され、その造成に都民の税金が使われ、下流域の住民は毎年浚渫を繰り返しても水位が上昇することに危機感を募らせています。なぎがはらわれると必要以上の流量を流し続けることになり、多摩川の危険な流域が長期間続くこととなります。水難事故の要因にもなりかねません。流域の健全な利用方法をご検討下さい。	ダムや堰への要望については、施設管理者の東京都に情報提供させていただきました。
○						河川の安全性を高める工事は大事だが、新たな橋梁を架け、地域の利便性を向上する工事と同時に進めてほしい。 例えば、調布市の中東部側にも橋を造成してほしい。(調布駅南口からの直線的に道路延長線で川崎市側に通じる橋梁。)	道路橋梁の架設の要望については、道路計画に関する関係機関に情報提供させていただきます。
			○			新たな橋梁の造成による、街の活性化	
			○			粕江と調布の狭間あたりに、向こう岸への橋をかけてほしい。街の魅力に繋がると思います。	
				○		川に橋を渡して、調布南側の街並みに更なる魅力を与えてほしい。	
					○	稲城大橋の歩道側の道が全体的に痛んでおり、コンクリートが剥がれているところもあるので整備して欲しい。また、雨で濡れても徒歩や特に自転車走行でなるべく滑らない路面にして欲しい。管轄が異なるかもしれませんが、関係先にお伝えいただければ幸いです。	道路橋梁の要望については、道路に関する関係機関に情報提供させていただきます。
					○	二子橋に蜘蛛の巣がたくさんついていて汚く見えるので、掃除をしてほしいです。 自転車の量も多く歩きにくいので、整備してほしい。	
○						水衝部対策等の治水事業にも生態系保全の観点重視されるよう進めていただきたく思います。 多摩川の水辺が、文化的な活動のフィールドとして使いやすい状態を保てるよう管理されることを望みます。	関係機関や流域住民等と連携しながら「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりに取り組むことを目標としています。
○						利用と治水対策の両立ができると良いと思います。	
○						2019年の台風による浸水被害は記憶に新しく、近年の気候変動にともなう各地の被害を鑑みても、多摩川流域の住民は常に水害の不安と隣り合わせで生活している。 多摩川河川敷を日常的に歩いており、護岸工事のため自然が損なわれていく現状を残念に感じていたが、整備計画や内容を正しく理解し、意見を寄せられることは地域住民にとっても重要なことである。 整備内容については、水害対策はもちろんのこと自然資源保守等の多角的な観点から策定されたものであることは信頼できると感じた。 多摩川の豊かな自然を守り、同時に防災意識を高める意味でも、整備に関する情報の共有・発信は行政としても積極的に進めてほしい。	
○						これらの計画の他に、今後、豊かな市民の河川、河川敷の利用として、キャンプ場、安全な川遊び場、釣り場、市民農園、イベント会場、等の整備も進めて頂きたい。	
○						安全を守るための治水対策が何よりも優先されることは承知しているが、やはり日常生活の中で水辺空間を身近に感じてもらうための自然環境の多様性保全にも配慮が必要と感じています。	
○						災害予防のための整備と併せて、多摩川をより身近に、親しみを持てるような整備もしていただければと思います。	
○						JR東海道線・京浜東北線、京急本線鉄橋を前後したエリアの川の流れが他の部分よりうねっており、河川改良で一直線に出来ないか。 川崎市・東京都の協議が必要だとは認識しているが。 河口エリアの自然保護の必要性は理解しているが、河川増水時、上流部のごみ流れ着いており、若干の手入れは必要と思う。	
○						自然環境や緑地の保持に努めながら、人もより安心して暮らせる環境整備をしていただくと知って安心した。	
○						自然環境を考えた整備になっているのを知りました。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	十年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
○						とにかく、日々の暮らしの中にある景観を保ちつつ、災害にも強い計画を望みます	関係機関や流域住民等と連携しながら「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりに取り組むことを目標としています。
○						自然を残す場所と 整備するところのバランスを計画することは大変難しいと思っています。生態を保存しながらの治水対策法を検討 新規内容計画を進めてください。	
○						災害対策は優先するべきですので、本計画を歓迎します。ただ平常時が大半ですので、市民が多摩川に愛着を感じる魅力ある空間も意識して拡充してください。	
○						護岸整備を進めつつ、賑わいづくりに係る施策もお願いしたい	
○						安全面が高まることは非常にありがたい。一方、コンクリートや人工的な構造物で景観や生息する生物をも蔑ろにしない、むしろポジティブになるような開発や整備が望まれる。	
○						多摩川水系河川整備計画では課題や目標としてエコトーンの保全・創出やグリーンインフラによる治水と環境の調和などがあげられているが、多摩川水系河川整備計画パンフレットの水衝部対策のイメージ図からはグレーインフラによる治水に偏ったような印象を感じる。治水と環境の調和を目指している以上、コンクリートパネルの上に盛り土を行うなどの工夫をして既存のエコトーンはなるべく減らさないようにしてほしい。	
○						全体として、河川・砂州および河川敷に棲む生物への配慮に欠けていると感じる。たとえば水衝部の整備は強化した上から草地を生成するなど草地の生物への負の影響を減らす試みを合わせて行うべきだし、河底の掘削や高規格堤防造成の際に河岸林や藪を撤去し魚類やサギ類の生息環境を悪化させた南六郷等の地域では調査を行いながら環境を復元していく必要がある。	
○						護岸をコンクリートでおおったり、上流からヘドロを流すなどで、川床に変化があると水生昆虫や生物の隠れ場所もなくなる心配がある。資料内に出てきた動植物以外にも生態系を保持するよう人工的、人為的影響をなるべく少なく対策してほしい	
○						護岸は憩いの場でもあるので、自然を感じられる整備計画にしてほしい。	
○						<ul style="list-style-type: none"> ・区間1の六郷橋付近から下流にかけてのヨシ原は、夏期はオオヨシキリやセッカなどの鳥類の繁殖場所、冬期はオオジュリンなどの鳥類の越冬場所であり、夏から秋にかけてはツバメの大規模な滞りが形成される、鳥類にとっての貴重な環境です。ヨシ原は水質浄化の機能もあります。河道掘削によりより多くの水を流せるようにすることは重要ですが、ヨシ原の保全の考慮して行うべきと考えます。また、ヨシ原を掘削せざるを得ない場合は、掘削したヨシ原と同程度以上の面積のヨシ原を創出する取組を行うべきです。 ・河口のスカイブリッジ付近は生態系保持空間に指定されていますが、実際には干潟への人の立ち入りが多く、釣りやバードウォッチング、潮干狩り、散策など様々な利用がされています。また、河口は羽田空港と隣接しており、バードストライク対策が重要です。そのため、河口部の空港に近い左岸側は生態系保持空間を解除し、右岸側は引き続き生態系保持空間にすることを提案します。左岸側の干潟に人が立ち入ることができるようにすることで、河川環境を体感して楽しむことができるようにするとともに、人が立ち入ることによって野鳥が忌避するようになり、バードストライクのリスクを低減できると考えます。右岸側は生態系保持空間としての管理を強化して、人の立ち入りを制限することで、野鳥などの生物が安心して生息できるようにします。 ・河口の右岸側には離れた場所から野鳥を観察できる施設(ハイド)を整備することで、環境学習の場とするとともに、人の立ち入りを抑止することもでき、生態系保持空間としての機能を強化できます。河口干潟では四季を通じて様々な野鳥を観察することができ、バードウォッチングは世界共通の趣味であるので、羽田空港を訪れた外国人の観光資源とすることもできます。羽田空港と河口干潟は隣接していますが、空港から干潟へのアクセス方法が非常にわかりにくいので、アクセスルートおよび周知方法の改善が必要です。 ・羽田空港からスカイブリッジを渡って右岸の堤防上に出るためには大回りをする必要があるのと、経路が非常にわかりにくいので、スカイブリッジから右岸の堤防上に直に降りるための階段の増設を提案します。階段だけだとバリアフリーの課題があるため、スロープも設置することが望ましいですが、橋の構造上、スロープの設置は難しいと思われるので、階段だけでも設置することが望ましいです。 ・河口左岸側のソラムナード羽田緑地は河口の景観を一望できる素晴らしいスポットですが、一直線の散策路が非常に単調であるのと、街路樹がないため夏期は非常に暑く、熱中症のリスクがあります。バードストライク対策のため、野鳥が集まる樹木が植えられないのだと推測しますので、散策路沿いにネット状の屋根を設置し、つる植物を這わせることで日陰をつくることを提案します。このことで景観に変化をもたらし、単調な散策路の景観のアクセントにもなります。 	
○						災害に強い多摩川を目指すことは重要ですが、樹木を伐採して護岸や堤防をコンクリートで覆うのではなく、動植物の生息を妨げないようにしてほしい。多摩川流域に生息するのは昆虫、魚類、鳥類だけでなく、哺乳類などもあります。それらの観察や保護をしている研究者や市民の声をもっと聞いて、多摩川の豊かな自然を守ってほしいです。	
○						自然が豊かで景観が美しい場所だと思います。	
○						台風で被害が出たのは行政の対策にも原因があったことを忘れないでほしい。土嚢が1段しか積みなかったことが知られていない。整備していただけるのは有り難いがコンクリートだらけというのも…ほかに策はないのか。	

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針	
整備内容	環境・利水	10年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望		
						ご意見		
	○					子供の頃から比べ水質が改善されていることは近くで見ていると本当に実感しています。環境整備の取り組みにも努力されているのは大変ありがたいと思っています。ただ、環境保全のまま手をつけなかったのが良かったのかは疑問です。雨水災害が多発している今、最終的にはこの地域は多摩川に助けを求めたいと思います。多摩川を大事にしたいと思っています。	関係機関や流域住民等と連携しながら「治水」「環境」「利用」が調和した川づくりに取り組むことを目標としています。	
	○					これからも自然豊かな多摩川であって欲しい。		
	○					川原と湿原や草木を残して欲しいです 勝手に利用している河川敷は排除して欲しいです		
	○					多摩川に沿って孫たちと歩いたことがあります。自然を守って安全な川であってほしいです。		
	○					工業用水の需要が低下しているなか、環境重視にカジを振る考えもあるが、環境、利水よりも治水がなにより重要かと思えます。		
	○					多摩川の道路を隔てたすぐの所に住んで居ます、小学生の頃へドロだらけの川、今は大変綺麗に成っていますが今後気候変動で何時氾濫するか分からない心配です		
	○					多摩川は、治水機能だけでなく、多様な生態系と市民の生活・文化を支える重要な資源であり、その価値は年々高まっていると感じます。特に二子玉川周辺では、河川敷が自然観察やレクリエーションの場であると同時に、イベントや地域交流の拠点としても機能しており、環境保全と利水の両立が不可欠です。環境面では、ヨシ原など、多摩川特有の自然景観と生態系を守ることが重要です。生息環境の保全・再生を進めつつ、水質改善や外来種対策を継続的に行うことで、多摩川が持つ生物多様性を維持・向上させる必要があります。 利水面では、農業・工業・生活用水としての利用に加え、近年は観光やイベントなど地域のにぎわい創出につながる活用も重要になっています。特に、河川敷や水辺空間の活用を円滑にするために、水道・トイレ・電源・自動販売機などの基礎インフラ整備が求められます。これにより、民間事業者や地域団体が安全かつ持続的に活動できる環境が整い、地域経済や文化の発展にもつながります。 今後も、治水・環境保全・利水が三位一体となった多摩川の管理・整備が進み、地域住民と民間・行政が連携しながら、その価値を次世代に引き継げることを期待します。		
					○	治水や安全性の向上		
					○	人工的な構造物は必要ないし、あえて人を誘致する必要はないと思う。自然のままに最低限の防災のための対策をとるだけでよいのでは？		
					○	自然環境と治水、街づくりの両立が進めばよいと思います。		
					○	河川公園、河川グラウンドの整備を進めつつ、災害時にも役立つ多摩川になってほしい		
					○	治水整備ありがとうございます。令和元年に自宅が床下浸水した時、高齢の両親と死を覚悟しました。整備が進む一方、近隣の側溝は土で埋まり、草が飛び出る箇所も散見されます。整備を生かす上で、既存のインフラも重要です。住民から情報を受理し、イベントを活用するなどして、地域住民一体で整備できる事を望みます。		
	○					良いと思います		ご意見をありがとうございました。
	○					安全のために整備することは必要だと思う		
	○					このままより良い整備を行なってほしい。		
	○					詳しいことは分かりませんが専門家何練った案なので支持します。		
	○					整備していただいてありがたい いざという時の為に、貯水槽等を検討して欲しい		
	○					整備に賛成します		
	○					様々な災害の対策がされているのは心強いです。		
	○					都市部の貴重な緑だと思います。		

アンケート自由記載意見

(項目)						(記述)	河川整備計画への対応箇所や今後の対応方針
整備内容	環境・利水	10年前比較	将来へ期待	河川敷利用	景観	要望	
						ご意見	
		<input type="radio"/>				意外に生物が多いんだと思った	ご意見をありがとうございました。
		<input type="radio"/>				耕作放棄地、所有者不明土地の問題は日本の政策の失敗例です。多摩川に限らず豊かな水源を最大限に活かし、これら未利用土地を国有公有化し、公共農地とし従事者を公務員と定め、農大や企業、地域の学校、住民と共に新しい農の形を生み出す必要があります。	
		<input type="radio"/>				多摩川上流域の水源の土地所有について、中国人が多数所有しているとのことです。水資源は安全保障上の食料と同様に貴重な資源であるので国有化などの適切な対応、外国人による所有制限の法制化など対応をお願いします。	
		<input type="radio"/>				これからも水の大切さを市民に知らせていただきたい。	
		<input type="radio"/>				多摩川の生態系について、ほかの河川や上下流のちがいがなど、より詳細に知りたいと思いました。	
		<input type="radio"/>				現在 50歳半ばだが、私が小学生のころと比べて 魚の数が減っている。更に個体も小さくなっている。これも環境の悪化がもたらすものなのでしょうか。	
		<input type="radio"/>				数年前から野鳥の観察を多摩川でしていますが、野鳥の数が減ってきているように感じます。	
		<input type="radio"/>				自然環境を保全することを目標にしているところにとっても賛同します。東京で暮らす子ども達がどこかへ旅行をしないと自然が何か分からないような東京にはしたくないです。	
		<input type="radio"/>				質問の意図がいまいちよくわからないので、何を聞きたいのか具体的にお願ひできますでしょうか。	
		<input type="radio"/>				10年前と比べて特に何かがよくなったとは感じない。	
		<input type="radio"/>				悪くなっている。	
				<input type="radio"/>		なし	
				<input type="radio"/>		上水との関連もお願いします。	
				<input type="radio"/>		近隣地域に住んでいないため、具体的なものが思いつきません。	
				<input type="radio"/>		災害を防ぐことは重要ですが地域に住んでいる人々の生活環境も守ってほしい	
				<input type="radio"/>		いかだ道の標記	
				<input type="radio"/>		「いっしょに考えてみませんか多摩川のこれから」ということだが、結局は自分たちがやっていることの啓発と認知度確認のためのアンケートでがっかりしました。	
				<input type="radio"/>		7/13(日)の第62回多摩川流域セミナーに一般市民として参加しました(いつもは「野川流域連絡会」の都民委員=三鷹市、で活動しています)。都合により意見交換会は欠席しましたが、午前の川崎河港水門や高規格堤防整備事業の現地視察、午後の部の知花教授のプレゼンまでは出席しました。自分の知見を深めるのにとても役立ちました。関係者、特に休日勤務となったはずの京浜河川事務所の方々に深く感謝申し上げます。高規格堤防事業については、あの高層マンション住民全員が知っておくべき内容ですし、これからの事業計画予定地の住民のみならず、浸水想定区域内人口約183万人がすべからく知っておくべき内容と感じました。特に小中学校生徒への浸透があると良いと思います。	